

2021

動物看護科 シラバス



学校法人京都中央学院

YIC京都ペット総合専門学校

シラバスとは

シラバスとは講義概要であり授業全体の計画書のことです。授業の目標・内容・参考図書・成績評価の方法などが記され、皆さんが授業内や授業外で学修を行うための指針を示すものです。

教員は、この指針に従って授業を行うことになります。したがってシラバスは授業計画を学生と教員との間で共有する、「契約書」に近い位置づけのものです。シラバスに記載された目標を達成するために、教員は授業を通して学生である皆さんに知識と技術を習得させる義務を負います。逆に皆さんは授業に出席する義務を負うことになります。

また広い意味では、本校が地域社会に対して本校の教育の質を担保するものでもあります。

実際に授業が行われるにあたって、学生や教員があらかじめ準備したり、従うべき事項等を共有する文書となります。授業で行われる内容があらかじめ記載されていますので、学生は授業に臨む際に前もって準備を行うことができますし、記載されている評価方法に向けての学修などを行うこともできます。

シラバスを作成する過程で、教員が自らの行う授業の内容、評価方法などの具体的構造を見直すことができ、自分の授業を見直す良い機会になります。

皆さんは、このシラバスを活用して、悔いのない学生生活を送っていただくようお願いします。

別表2

動物看護科 教育課程

区分	科 目 名			1年		2年		合計		
	分野	学習目標／大科目名	科目	単位	時間	単位	時間	単位	時間	
(専門基礎分野)	基礎動物看護学	動物の体と構造と機能を理解する	動物形態機能学	4	120			4	120	
			動物繁殖学	1	30			1	30	
		疾病の成り立ちと回復の促進に寄与することを学ぶ	動物病理学			1	30	1	30	
			動物薬理学Ⅰ	1	30			1	30	
			動物薬理学Ⅱ	1	30			1	30	
			動物感染症学Ⅰ	1	30			1	30	
			動物感染症学Ⅱ	1	30			1	30	
			動物感染症学Ⅲ	1	30			1	30	
	応用動物看護学	人と動物の調和に関わることを学ぶ	動物看護学概論Ⅰ	1	30			1	30	
			動物看護学概論Ⅱ	1	30			1	30	
			動物医療関連法規	1	30			1	30	
			公衆衛生学Ⅰ	1	30			1	30	
			公衆衛生学Ⅱ	1	30			1	30	
			動物人間関係学			1	30	1	30	
			動物福祉・倫理	1	30			1	30	
			動物行動学	1	30			1	30	
		様々な動物の特性と人との関わりを理解する	伴侶動物学Ⅰ	1	30			1	30	
			伴侶動物学Ⅱ	1	30			1	30	
			産業動物学			1	30	1	30	
			実験動物学			1	15	1	15	
	臨床動物看護学	動物の臨床看護に必要な知識を修得する	野生動物学			1	30	1	30	
			動物内科看護学	1	30			1	30	
			動物外科看護学	2	60			2	60	
			動物臨床看護学総論	1	30			1	30	
			動物臨床看護学各論Ⅰ			2	60	2	60	
		動物病院業務に必要な知識を修得する	動物臨床看護学各論Ⅱ			2	60	2	60	
			動物臨床栄養学Ⅰ	1	30			1	30	
			動物臨床栄養学Ⅱ			1	30	1	30	
			動物臨床検査学Ⅰ	1	30			1	30	
			動物臨床検査学Ⅱ	1	30			1	30	
			動物医療コミュニケーション	1	30			1	30	
必修科目(専門基礎分野)計				27	810	10	285	37	1,095	
(専門科目分野)	実習	修得した知識の実践力を身につける	動物形態機能学実習Ⅰ	1	30			1	30	
			動物形態機能学実習Ⅱ	1	15			1	15	
			産業動物学実習			1	15	1	15	
			動物内科看護学実習Ⅰ	1	30			1	30	
			動物内科看護学実習Ⅱ			2	60	2	60	
			動物臨床検査学実習Ⅰ	1	30			1	30	
			動物臨床検査学実習Ⅱ	2	60			2	60	
			動物外科看護学実習Ⅰ	1	30			1	30	
			動物外科看護学実習Ⅱ			2	60	2	60	
			動物臨床看護学実習Ⅰ			1	30	1	30	
			動物臨床看護学実習Ⅱ			1	15	1	15	
			動物看護総合実習Ⅰ	1	45			1	45	
			動物看護総合実習Ⅱ			2	90	2	90	
			動物看護総合実習Ⅲ			1	45	1	45	
必修科目(専門基礎分野)計				8	240	10	315	18	555	
必修科目(専門基礎分野＋専門分野)計				35	1,050	20	600	55	1,650	
(社会人基礎分野)	社会の中で自分の役割を考える	キャリアデザイン	キャリアデザインⅠ	1	30			1	30	
			キャリアデザインⅡ	1	30			1	30	
		ボランティア活動	キャリアデザインⅢ			1	30	1	30	
			ボランティア活動Ⅰ	1	30			1	30	
	社会人として必要なビジネス能力	ボランティア活動Ⅱ	ボランティア活動Ⅱ			1	30	1	30	
			損害保険学	1	15			1	15	
		基本IT技術	損害保険学			1	30	1	30	
			基本IT技術Ⅰ			2	60	2	60	
		社会人として持つべき基礎的教養	イベントプロデュース	基本IT技術Ⅱ						
				イベントプロデュース	1	15			1	15
	社会常識		イベントプロデュース			1	30	1	30	
			社会常識			1	30	1	30	
	専門を深める		ビジネス文章力	ビジネス文章力Ⅰ			1	30	1	30
				ビジネス文章力Ⅱ			1	30	1	30
		コミュニケーション	コミュニケーション学			1	30	1	30	
			プレゼンテーション学			1	30	1	30	
	専門を深める	フィットネス	プレゼンテーション学			1	30	1	30	
			フィットネス	1	30			1	30	
動物飼育実習		動物飼育実習Ⅰ	1	30			1	30		
		動物飼育実習Ⅱ			1	30	1	30		
		動物飼育実習Ⅲ			1	30	1	30		
		動物内科看護学実習Ⅲ			2	60	2	60		
動物看護師総合学	統一試験対策Ⅰ			2	30	1	30			
	統一試験対策Ⅱ			1	30	1	30			
必修科目(社会人基礎分野)計				7	180	15	450	22	630	
必修科目(専門基礎分野＋専門分野＋社会人基礎分野)計				42	1,230	35	1,050	77	2,280	
選択科目	専門を深める	アニマルヘルパー	1	30	1	30	2	60		
	社会人として持つべき基礎的教養	ビジネス文章力	ビジネス文章力Ⅱ			1	30	1	30	
		日本文化	日本文化	1	30	1	30	2	60	
選択科目(社会人基礎分野＋専門分野)計				2	60	3	90	5	150	
必須科目＋選択科目 総計				44	1,290	38	1,140	82	2,430	

・単位と時間の関係は 講義は15～30時間/単位(自宅学習を含む)のものと、実習は15～45時間/単位のものに分かれる
・科目履修(単位)認定の要件: 80%以上の出席 および 期末試験 60点以上を基本とするが、科目により実技試験、あるいはレポートに換える場合もある
・卒業の要件: 必須科目77単位(2,280時間)以上の履修

科目名	動物形態機能学			単位数	4	科目コード	NA2101	
授業形態	講義			対象学生	1年生	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	前期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	動物の生命維持の仕組みを形態学、機能学、生化学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解するとともに病的変化について学ぶ基盤を確立する。							
授業の一般目標	動物の体に構造と機能を理解する							
受講条件	動物看護科に在籍している							
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD Press出版「認定動物看護師教育コアカリキュラム2019準拠 基礎動物看護学1」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	細胞・組織・神経・血液について、それぞれの説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	主体性と積極性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
動物形態機能学総論を理解し、生物学の復習、動物の体の機能・構造、器官系について学ぶ。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題			授 業 内 容			備考	
第1～2回	形態機能学とは			形態学、機能学の意味について				
第3～4回	生物学の復習①			体（物質）の成り立ち/様々な細胞の形と構造について				
第5～6回	生物学の復習②			細胞の分裂/生殖の方法				
第7～8回	生物学の復習③			メンデルと遺伝の法則/性と遺伝について				
第9～10回	動物の体の機能			生命を維持する働きと、生命を積極的に活用し運動・調整を行う働きについて				
第11～12回	動物の体の構造①			上皮組織、腺組織について				
第13～14回	動物の体の構造①			支持組織、筋組織、神経組織について				
第15～16回	循環器①			心臓の構造について				
第17～18回	循環器②			心臓機能の調整機構について				
第19～20回	循環器③			血管の種類、構造、機能について				
第21～22回	呼吸器①			呼吸器の成り立ちと構造について				
第23～24回	呼吸器②			肺胞におけるガス交換について				
第25～26回	呼吸器③			酸素の移動、二酸化酸素の運搬について				
第27～28回	呼吸器④			呼吸運動の調整機構について				
第29～30回	授業振り返り/単位認定試験/テスト返し/解説			授業振り返り/授業内にて前期末試験/試験の問題の意義/復習する			※学生証が必要	
第31～32回	消化器①			消化器（口腔、咽頭、食道、胃、小腸、大腸）の構造について①				
第33～34回	消化器①			消化器（口腔、咽頭、食道、胃、小腸、大腸）の構造について②				
第35～36回	内分泌①			ホルモンの性質、機能、生成、分泌、フィードバック調整について①				
第37～38回	内分泌①			ホルモンの性質、機能、生成、分泌、フィードバック調整について②				
第39～40回	泌尿器			泌尿器系の成り立ち構造/体液調整と尿生成について				
第41～42回	神経①			神経系の成り立ちと構造/中枢神経系と抹消神経系の構成と機能について①				
第43～44回	神経②			神経系の成り立ちと構造/中枢神経系と抹消神経系の構成と機能について②				
第45～46回	運動器①			骨格系と筋系の成り立ちと構造と機能について①				
第47～48回	運動器②			骨格系と筋系の成り立ちと構造と機能について②				
第49～50回	血液と造血器①			骨髄と血液の関連/血液の成り立ちと機能について①				
第51～52回	血液と造血器②			骨髄と血液の関連/血液の成り立ちと機能について②				
第53～54回	血液と造血器③			骨髄と血液の関連/血液の成り立ちと機能について③				
第55～56回	皮膚			皮膚の組織構造と機能について				
第57～58回	感覚器			眼、耳の構造と機能/味覚、嗅覚、痛覚のしくみについて				
第59～60回	授業振り返り/単位認定試験/テスト返し/解説			授業振り返り/授業内にて前期末試験/試験の問題の意義/復習する			※学生証が必要	
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀（S）:100点～90点
小テスト	○	○					20	優（A）:89点～80点
宿題授業外レポート		◎					10	良（B）:79点～70点
授業態度			○	○			10	可（D）:69点～60点
発表・作品							-	不可（E）:59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	動物繁殖学		単位数	1	科目コード	NA2002		
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	繁殖に関わる形態機能学を学び、妊娠・分娩と新生子管理、遺伝学の基礎知識を修得する							
授業の一般目標	動物の体に構造と機能を理解する							
受講条件	動物看護科に在籍している							
事前学習について (テキスト・参考書等)	緑書房出版「動物看護の教科書(新訂版) 第1巻」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	動物繁殖学の概論、分娩・新生児、遺伝学について説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	主体性と積極性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
動物繁殖学総論を理解し、生殖器の形態と機能や性周期の交配、妊娠と分娩、新生子管理、遺伝学概論を学ぶ。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容				備 考	
第1回	動物繁殖学総論①		犬の繁殖、性成熟、繁殖生理について					
第2回	動物繁殖学総論②		猫の繁殖、性成熟、繁殖生理について					
第3回	生殖器の形態と機能		生殖器(雄・雌)の基本構造について					
第4回	発情、胎子、比較解剖、繁殖と遺伝の復習①		性成熟と発情徴候、性ホルモンのことについて					
第5回	発情、胎子、比較解剖、繁殖と遺伝の復習②		排卵(自然排卵・交尾排卵)のしくみについて					
第6回	発情、胎子、比較解剖、繁殖と遺伝の復習③		性周期と腫細胞スミアの関係/交配適期の決定法について					
第7回	妊娠と分娩①		着床・妊娠・胎児の発育について					
第8回	妊娠と分娩②		妊娠診断、妊娠期間、妊娠徴候について					
第9回	妊娠と分娩③		分娩と助産、帝王切開について					
第10回	妊娠と分娩④		人工授精について					
第11回	新生子管理		新生子のための飼育環境、初乳の意義と哺乳/発育過程について					
第12回	遺伝学概論①		遺伝の基礎知識、メカニズム、性と遺伝、生殖方法について					
第13回	遺伝学概論②		様々な遺伝様式(顕性、潜性、伴性遺伝)について					
第14回	授業振り返り/単位認定試験		授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける				※学生証が必要	
第15回	テスト返し/解説		前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀(S):100点～90点
小テスト	○	○					20	優(A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎					10	良(B):79点～70点
授業態度			○	○			10	可(D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	動物病理学			単位数	1	科目コード	NA2003	
授業形態	講義			対象学生	2年生	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	前期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	様々な疾病が組織や臓器にもたらす変化を学び、病態について理解する。							
授業の一般目標	疾病の成り立ちと回復の促進に寄与することを学ぶ							
受講条件	動物形態機能学の単位認定							
事前学習について (テキスト・参考書等)	緑書房出版「動物看護の教科書(新訂版) 第2巻」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	各種病理学用語を説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	主体性と積極性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
動物病理学総論を理解し、細胞や組織に生じる変化や循環器障害、炎症、腫瘍、先天異常を学ぶ。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題			授 業 内 容			備考	
第1回	動物病理学とは			病理解剖と病理組織学的検査の目的と意義				
第2回	細胞や組織に生じる変化①			変性と物質沈着/壊死とアポトーシスについて				
第3回	細胞や組織に生じる変化②			細胞増殖のメカニズム、器質化、再生と化生について				
第4回	細胞や組織に生じる変化③			過形成と肥大/萎縮と低形成について				
第5回	循環器障害①			充血とうっ血/出血の原因について				
第6回	循環器障害②			血栓の成因/虚血と梗塞について				
第7回	循環器障害③			水腫と浮腫/ショックの原因と分離/播種性血管内凝固について				
第8回	炎症①			炎症の定義/炎症の分類と原因について				
第9回	炎症②			炎症に関与する細胞と化学伝達物質/炎症と経過と治癒について				
第10回	腫瘍①			腫瘍の定義と分類/腫瘍の原因と発生期機序について				
第11回	腫瘍②			腫瘍と宿主の関係/腫瘍の転移と進行について				
第12回	先天異常①			遺伝子・染色体異常について				
第13回	先天異常②			発生異常と奇形について				
第14回	授業振り返り/単位認定試験			授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける			※学生証が必要	
第15回	テスト返し/解説			前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する				
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点～90点
小テスト	○	○					20	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	○			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	動物薬理学Ⅰ			単位数	1	科目コード		
授業形態	講義			対象学生	1年次	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	前期	教員実務経験対象	有	
授業概要 (目的・目標とする資格・検定等)	代表的な薬物の体内動態と作用機序、臨床及び副作用について学び、動物の疾病の診断や治療にどのように用いられるかを理解する。							
授業の一般目標	疾病の成り立ちと回復の促進に寄与することを学ぶ							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD Press出版「認定動物看護師教育コアカリキュラム2019準拠 基礎動物看護学2」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	薬物の体内動態と作用機序を説明することができる。2. 代表的な薬物の作用・副作用を説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
動物薬理学の基礎を理解し、動物看護師による薬物の取り扱いや神経系に作用する薬物について学ぶ。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題			授 業 内 容			備考	
第1回	動物看護師による薬物の取り扱い			薬理学概論 医薬品の基準と分類、医薬品の開発				
第2回	動物薬理学の基礎①			薬と薬理作用、薬理作用の発現機構 薬の剤形と投与方法				
第3回	動物薬理学の基礎②			生体内での薬の動態（吸収、分布、代謝、排泄）				
第4回	動物薬理学の基礎③			薬効に影響を与える因子 薬の有害作用				
第5回	神経系に作用する薬①			神経系の基本的事項①				
第6回	神経系に作用する薬②			全身麻酔薬 局所麻酔薬				
第7回	神経系に作用する薬③			鎮痛薬 骨格筋弛緩薬				
第8回	神経系に作用する薬④			鎮静薬、抗痙攣薬 問題行動の治療薬				
第9回	呼吸器系に作用する薬①			呼吸興奮薬 鎮咳薬				
第10回	呼吸器系に作用する薬②			抗喘息薬（気管支拡張薬）				
第11回	循環器・泌尿器に作用する薬①			血管拡張薬（降圧薬） 心不全治療薬（強心薬）				
第12回	循環器・泌尿器に作用する薬②			抗不整脈薬 利尿薬、抗利尿薬				
第13回	半期振り返り			半期の内容のまとめ				
第14回	単位認定試験			授業内にて前期末試験を受ける			※学生証が必要	
第15回	テスト返し/解説			前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する				
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点～90点
小テスト	○	○					20	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	○			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	澤辺厚太			実務経験紹介	https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/sawabe/			

科目名	動物薬理学Ⅰ			単位数	1	科目コード		
授業形態	講義			対象学生	1年次	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	後期	教員実務経験対象	有	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	代表的な薬物の体内動態と作用機序、臨床及び副作用について学び、動物の疾病の診断や治療にどのように用いられるかを理解する。							
授業の一般目標	疾病の成り立ちと回復の促進に寄与することを学ぶ							
受講条件	動物薬理学Ⅰの単位履修							
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD Press出版「認定動物看護師教育コアカリキュラム2019準拠 基礎動物看護学2」							
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	薬物の体内動態と作用機序を説明することができる。2. 代表的な薬物の作用・副作用を説明できる。							
□ 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
□ 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
□ 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
□ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
動物薬理学の基礎を理解し、循環器・泌尿器に作用する薬物や消化器に作用する薬物、オートコイド、代謝・内分泌系の薬物、血液・免疫系に作用する薬物・化学療法薬について学ぶ。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題			授 業 内 容			備 考	
第1回	消化器に作用する薬①			制吐薬と催吐薬、抗潰瘍薬 消化管運動促進（調整薬）および抑制薬（鎮痙薬）				
第2回	消化器に作用する薬物②			止瀉（制瀉）薬、瀉下薬（緩下薬、下剤） 肝・脾疾患の治療薬				
第3回	オートコイド、内分泌・代謝系の薬①			オートコイドとは				
第4回	オートコイド、内分泌・代謝系の薬②			抗炎症薬 糖尿病治療薬				
第5回	オートコイド、内分泌・代謝系の薬③			甲状腺機能障害の治療薬 脂質代謝異常の治療薬、骨代謝異常の治療薬				
第6回	血液に作用する薬			貧血の発生機序と抗貧血薬 血液凝固阻害薬、血液凝固促進薬（止血薬）				
第7回	免疫系に作用する薬			免疫に影響を与える薬 ワクチン				
第8回	化学療法薬①			抗腫瘍薬				
第9回	化学療法薬②			抗菌薬・抗真菌薬①				
第10回	化学療法薬③			抗菌薬・抗真菌薬②				
第11回	化学療法薬④			駆虫薬・抗原虫薬、殺虫薬				
第12回	化学療法薬⑤			消毒薬				
第13回	半期振り返り			半期の内容のまとめ				
第14回	単位認定試験			授業内にて前期末試験を受ける			※学生証が必要	
第15回	テスト返し/解説			前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する				
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀（S）:100点～90点
小テスト	○	○					20	優（A）:89点～80点
宿題授業外レポート		◎					10	良（B）:79点～70点
授業態度			○	○			10	可（D）:69点～60点
発表・作品							－	不可（E）:59点以下
演習							－	
出席			◎				10	
担当教員	澤辺厚太			実務経験紹介	https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/sawabe/			

科目名	動物感染症学Ⅰ			単位数	1	科目コード		
授業形態	講義			対象学生	1年次	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	前期	教員実務経験対象	有	
授業概要 (目的・目標とする資格・検定等)	微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防・治療など感染症対策の基礎を修得する。 感染防御に関わる免疫学の基礎についても学ぶ。							
授業の一般目標	疾病の成り立ちと回復の促進に寄与することを学ぶ							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD Press出版「認定動物看護師教育コアカリキュラム2019準拠 基礎動物看護学3」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	動物感染症の概論、微生物について説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
動物看護学総論を理解し、感染の発症・経路や細菌について学ぶ。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容				備 考	
第1回	序論 ウイルス学総論		微生物、感染症および微生物学の歴史 ウイルスの分類～ウイルスの伝播					
第2回	細菌学総論①		細菌の分類、細菌の大きさ・形態・構造 細菌の増殖・代謝					
第3回	細菌学総論②		細菌の遺伝子 細菌の感染・発症					
第4回	真菌学総論		真菌の分類と特徴、真菌の増殖にかかわる要因 真菌の増殖様式と真菌種名、人獣共通感染症としての真菌					
第5回	プリオン総論 微生物検査法①		異常型プリオン 微生物検査におけるバイオセーフティ					
第6回	微生物検査法②		滅菌と消毒					
第7回	微生物検査法③		ウイルス検査法					
第8回	微生物検査法④		細菌検査法 薬剤感受性試験					
第9回	微生物検査法⑤		真菌検査法 プリオン病の検査・診断法					
第10回	感染防御にかかわる免疫と予防・治療①		感染症と病原体および生体防御機構①					
第11回	感染防御にかかわる免疫と予防・治療②		感染症と病原体および生体防御機構②					
第12回	感染防御にかかわる免疫と予防・治療③		予防としてのワクチンとワクチネーション 治療に用いる抗ウイルス薬と抗菌薬					
第13回	半期振り返り		半期の内容のまとめ					
第14回	授業振り返り/単位認定試験		授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける				※学生証が必要	
第15回	テスト返し/解説		前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点～90点
小テスト	○	○					20	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	○			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	澤辺厚太			実務経験紹介	https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/sawabe/			

科目名	動物感染症学Ⅱ			単位数	1	科目コード		
授業形態	講義			対象学生	1年次	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	後期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的・目標とする資格・検定等)	微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防・治療など感染症対策の基礎を修得する。 感染防御に関わる免疫学の基礎についても学ぶ。							
授業の一般目標	疾病の成り立ちと回復の促進に寄与することを学ぶ							
受講条件	動物感染症学Ⅰの単位認定							
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD Press出版「認定動物看護師教育コアカリキュラム2019準拠 基礎動物看護学3」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	動物感染症の内部寄生虫、外部寄生虫について説明ができる。 2. 犬猫の代表的な感染症をそれぞれ説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
動物看護学総論を理解し、ウイルス・寄生虫や犬猫の代表的な感染症について学ぶ。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容				備考	
第1回	感染症学各論 犬と猫の感染症①		狂犬病、犬ジステンパー					
第2回	感染症学各論 犬と猫の感染症②		犬アデノウイルス1型感染症、犬アデノウイルス2型感染症 犬パラインフルエンザ感染症					
第3回	感染症学各論 犬と猫の感染症③		犬パルボウイルス感染症、犬コロナウイルス感染症					
第4回	感染症学各論 犬と猫の感染症④		猫ウイルス性鼻気管炎、猫カリシウイルス感染症、猫汎白血球減少症					
第5回	感染症学各論 犬と猫の感染症⑤		猫白血病ウイルス感染症、猫免疫不全ウイルス感染症 猫コロナウイルス感染症					
第6回	感染症学各論 犬と猫の感染症⑥		細菌病 レプトスピラ症、クラミジア症、猫のヘモプラズマ症 真菌症 皮膚糸状菌症					
第7回	感染症学各論 産業動物の感染症①		口蹄疫、牛白血病、牛ウイルス性下痢ウイルス感染症					
第8回	感染症学各論 産業動物の感染症②		豚コレラ、高病原性鳥インフルエンザ					
第9回	感染症学各論 産業動物の感染症③		乳房炎、炭疽、牛海綿状脳症					
第10回	動物寄生虫学総論		歴史～寄生虫症の治療と看護・ケアおよび予防対策					
第11回	原虫類①		総論 赤痢アメーバ、ジアルジア、トリコモナス					
第12回	原虫類②		アピコンプレックス類(孢子虫類)、ヘパトゾーン類、ピロプラズマ類					
第13回	半期振り返り		半期の内容のまとめ					
第14回	授業振り返り/単位認定試験		授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける				※学生証が必要	
第15回	テスト返し/解説		前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点～90点
小テスト	○	○					20	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	○			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	動物感染症学Ⅲ		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防・治療など感染症対策の基礎を修得する。 感染防御に関わる免疫学の基礎についても学ぶ。							
授業の一般目標	疾病の成り立ちと回復の促進に寄与することを学ぶ							
受講条件	動物感染症学Ⅰの単位認定							
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD Press出版「認定動物看護師教育コアカリキュラム2019準拠 基礎動物看護学3」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	ワクチンについて説明できる。2. 感染症予防における滅菌・消毒の重要性を説明することができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備考		
第1回	蠕虫類①	総論 線虫類 総論						
第2回	蠕虫類②	回虫類(犬・猫、豚回虫)、ギョウ虫類、アニサキス類						
第3回	蠕虫類③	鉤虫類、糞線虫類、広東住血線虫						
第4回	蠕虫類④	犬糸状虫、東洋眼虫、鞭虫類 治療、看護・ケアおよび予防対策						
第5回	蠕虫類⑤	吸虫類 総論 横川吸虫、肝吸虫、壺型吸虫						
第6回	蠕虫類⑥	肺吸虫類、日本住血吸虫 治療、看護・ケアおよび予防対策						
第7回	蠕虫類⑦	条虫類 総論 犬、猫の条虫類、治療、看護・ケアおよび予防対策						
第8回	衛生動物①	総論						
第9回	衛生動物②	ダニ類①						
第10回	衛生動物③	ダニ類② シラミ・ハジラミ類						
第11回	衛生動物③	ノミ類 双翅類						
第12回	寄生虫症の診断と検査	総論 虫体の固定、保存、染色法						
第13回	半期振り返り	半期の内容のまとめ						
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける				※学生証が必要		
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点～90点
小テスト	○	○					20	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	○			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							－	不可(E):59点以下
演習							－	
出席			◎				10	
担当教員	澤辺厚太			実務経験紹介	https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/sawabe/			

科目名	動物看護学概論Ⅰ		単位数	1	科目コード	NB2001		
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	獣医療の歴史や動物看護師の職業倫理について学び、専門職としての社会的責務を理解し職業意識を形成する。							
授業の一般目標	人と動物の調和に関わることを学ぶ							
受講条件	動物看護科に在籍している							
事前学習について (テキスト・参考書等)	緑書房出版「動物看護の教科書(新訂版) 第3巻」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	動物看護師の職業倫理について説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
動物看護学総論を理解し、動物看護師の倫理や動物看護の提供、動物看護技術の特徴について学ぶ。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容			備考			
第1回	動物看護学総論①	動物看護の対象と目的、概念を理解する						
第2回	動物看護学総論②	動物看護師の需要と必要性						
第3回	動物看護学総論③	チーム獣医療のなかで動物看護師と獣医師の担当する職域の違い						
第4回	動物看護学総論④	獣医師と動物看護師の視点の違い						
第5回	動物看護師の倫理	動物看護者の倫理綱領について						
第6回	動物看護の提供①	動物の健康、福祉、ＱＯＬ/学校飼育動物における動物看護師の役割について						
第7回	動物看護の提供②	一次診療、二次診療、救急獣医療の役割と動物看護の提供について						
第8回	動物看護技術について考える①	動物看護技術の特徴について①						
第9回	動物看護技術について考える②	動物看護技術の特徴について②						
第10回	動物看護技術について考える③	動物看護技術の範囲について①						
第11回	動物看護技術について考える④	動物看護技術の範囲について②						
第12回	動物看護技術について考える⑤	動物看護技術の範囲について③						
第13回	動物看護技術について考える⑥	動物看護記録の作成、保存義務、開示義務について						
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける			※学生証が必要			
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点～90点
小テスト	○	○					20	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	○			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	北村 昌樹		実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/				

科目名	動物看護学概論Ⅱ			単位数	1	科目コード	NB2002	
授業形態	講義			対象学生	1年生	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	後期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)		獣医療の歴史や動物看護師の職業倫理について学び、専門職としての社会的責務を理解し職業意識を形成する。						
授業の一般目標		人と動物の調和に関わることを学ぶ						
受講条件		動物看護学概論Ⅰの単位認定						
事前学習について (テキスト・参考書等)		緑書房出版「動物看護の教科書(新訂版) 第3巻」						
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点		動物看護者の倫理規定について、各条項をそれぞれ説明できる。						
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点		臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。						
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点		自ら疑問点を見出し、追究することができる。						
<input type="checkbox"/> 態度の観点		積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。						
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
動物看護学総論を理解し、動物看護過程の展開や獣医療の歴史、動物看護と国家資格化の軌跡について学ぶ。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容				備考	
第1回	動物看護過程の展開①		動物看護過程の目的や意義、方法について①					
第2回	動物看護過程の展開②		動物看護過程の目的や意義、方法について②					
第3回	動物看護過程の展開③		動物看護過程の各ステップについて/アシスメント					
第4回	動物看護過程の展開④		動物看護過程の各ステップについて/動物看護診断					
第5回	動物看護過程の展開⑤		動物看護過程の各ステップについて/動物看護計画					
第6回	動物看護過程の展開⑥		動物看護過程の各ステップについて/動物看護実践					
第7回	動物看護過程の展開⑦		動物看護過程の各ステップについて/動物看護記録と評価					
第8回	動物看護過程の展開⑧		事例を用いながら動物看護過程の展開の実践					
第9回	獣医療の歴史、動物看護と国家資格化の軌跡		歴史上にみる獣医療の歴史					
第10回	獣医療の歴史、動物看護と国家資格化の軌跡		動物看護師の統一認定資格までの軌跡					
第11回	獣医療の歴史、動物看護と国家資格化の軌跡		国家資格化に向けての軌跡					
第12回	獣医療の歴史、動物看護と国家資格化の軌跡		愛玩動物看護師法に基づく職域について					
第13回	獣医療の歴史、動物看護と国家資格化の軌跡		欧米の動物看護師の職域の相違について					
第14回	授業振り返り/単位認定試験		授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける				※学生証が必要	
第15回	テスト返し/解説		前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点～90点
小テスト	○	○					20	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	○			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	北村 昌樹			実務経験紹介	https://www.vic-kvoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/			

科目名	動物医療関連法規		単位数	1	科目コード	NB2003		
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	動物や獣医療に関連するさまざまな法規について学び、社会における動物看護の役割を理解する。							
授業の一般目標	人と動物の調和に関わることを学ぶ							
受講条件	動物看護科に在籍している							
事前学習について (テキスト・参考書等)	緑書房出版「動物看護の教科書(新訂版) 第3巻」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	動物関係の法律について説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
法学総論を理解し、獣医療関連行政法規(獣医事行政法規)や公衆衛生行政法規、薬事行政法規、環境行政関連法規を学ぶ。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容		備考			
第1回	法学総論		法の体系/獣医療に関する法規と動物看護師の関わりについて					
第2回	獣医療関連行政法規(獣医事行政法規)①		獣医師法の概要について					
第3回	獣医療関連行政法規(獣医事行政法規)②		家畜療法について					
第4回	獣医療関連行政法規(獣医事行政法規)③		愛玩動物用飼料の安全性の確保に関する法律について					
第5回	公衆衛生行政法規①		感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律について					
第6回	公衆衛生行政法規②		狂犬病予防法の概要について					
第7回	公衆衛生行政法規③		食品衛生法/身体障害者補助犬法について					
第8回	薬事行政法規		薬機法の概要について					
第9回	環境行政関連法規①		動物の愛護及び管理に関する法律について					
第10回	環境行政関連法規②		特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律について					
第11回	環境行政関連法規③		絶滅のおそれがある野生動植物の種の国際取引に関する条約について					
第12回	環境行政関連法規④		鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律について					
第13回	環境行政関連法規⑤		水鳥の生態地として国際的に重要な湿地に関する条約について					
第14回	授業振り返り/単位認定試験		授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける		※学生証が必要			
第15回	テスト返し/解説		前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点～90点
小テスト	○	○					20	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	○			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	藤本 嘉明			実務経験紹介				

科目名	公衆衛生学Ⅰ			単位数	1	科目コード		
授業形態	講義			対象学生	1年次	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	前期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的・目標とする資格・検定等)	環境および食品衛生、疫学、人獣共通感染症について学び、人の健康の維持・増進や疾病予防への応用について理解する。							
授業の一般目標	人と動物の調和に関わることを学ぶ							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD Press出版「認定動物看護師教育コアカリキュラム2019準拠 応用動物看護学2」							
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	1. 公衆衛生学各種用語について簡単に説明ができる。							
□ 思考・判断の観点	1. 臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
□ 関心・意欲の観点	1. 自ら疑問点を見出し、追及することができる。							
□ 態度の観点	1. 主体性と積極性を持った謙虚な振る舞いができる。							
□ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
公衆衛生総論を理解し、動物公衆衛生を学ぶ。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題			授 業 内 容			備考	
第1回	動物看護師と公衆衛生			公衆衛生の目的、公衆衛生行政と獣医師、国民衛生の動向、動物看護師と公衆衛生				
第2回	食品衛生①			食品衛生法				
第3回	食品衛生②			食中毒①				
第4回	食品衛生③			食中毒②				
第5回	食品衛生④			食品とアレルギー				
第6回	食品衛生④			食品の保存方法、食品安全行政の動向				
第7回	食品衛生⑤			食品由来の健康危害防止				
第8回	環境衛生①			環境衛生とは 地球規模の環境問題				
第9回	環境衛生②			水の衛生				
第10回	環境衛生③			生活環境問題				
第11回	環境衛生④			廃棄物問題				
第12回	環境衛生⑤			衛生動物				
第13回	半期振り返り			半期の内容のまとめ				
第14回	単位認定試験			授業内にて前期末試験を受ける			※学生証が必要	
第15回	テスト返し/解説			前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する				
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点～90点
小テスト	○	○					20	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	○			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員				実務経験紹介				-

科目名	公衆衛生学Ⅱ			単位数	1	科目コード		
授業形態	講義			対象学生	1年次	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	後期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)		環境および食品衛生、疫学、人獣共通感染症について学び、人の健康の維持・増進や疾病予防への応用について理解する。						
授業の一般目標		人と動物の調和に関わることを学ぶ						
受講条件		公衆衛生学Ⅰの単位認定						
事前学習について (テキスト・参考書等)		EDUWARD Press出版「認定動物看護師教育コアカリキュラム2019準拠 応用動物看護学2」						
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点		主な人獣共通感染症の感染経路や予防方法を説明することができる。						
□ 思考・判断の観点		臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。						
□ 関心・意欲の観点		自ら疑問点を見出し、追究することができる。						
□ 態度の観点		積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。						
□ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
公衆衛生総論を理解し、人獣共通感染症や振興感染症と再興感染症、疫学を学ぶ。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容				備考	
第1回	疫病と疾病予防		疫学とは～サーベイランスについて					
第2回	人獣共通感染症（動物由来感染症）①		病原体等に対する安全対策 ウイルス性人獣共通感染症①					
第3回	人獣共通感染症（動物由来感染症）②		ウイルス性人獣共通感染症②					
第4回	人獣共通感染症（動物由来感染症）③		ウイルス性人獣共通感染症③					
第5回	人獣共通感染症（動物由来感染症）④		ウイルス性人獣共通感染症④ 細菌性人獣共通感染症①					
第6回	人獣共通感染症（動物由来感染症）⑤		細菌性人獣共通感染症②					
第7回	人獣共通感染症（動物由来感染症）⑥		細菌性人獣共通感染症③					
第8回	人獣共通感染症（動物由来感染症）⑦		細菌性人獣共通感染症④ 真菌性人獣共通感染症					
第9回	人獣共通感染症（動物由来感染症）⑧		寄生虫①					
第10回	人獣共通感染症（動物由来感染症）⑨		寄生虫②					
第11回	人獣共通感染症（動物由来感染症）⑩		新興感染症と再興感染症					
第12回	人獣共通感染症（動物由来感染症）⑪		狂犬病予防の重要性					
第13回	半期振り返り		半期の内容のまとめ					
第14回	授業振り返り/単位認定試験		授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける				※学生証が必要	
第15回	テスト返し/解説		前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点～90点
小テスト	○	○					20	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	○			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	動物人間関係学			単位数	1	科目コード	NB2006	
授業形態	講義			対象学生	2年生	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	前期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	動物が人間社会で果たしている役割やその背景・歴史について学び、人と動物の関係を心理学のおよび社会学的側面から理解する。							
授業の一般目標	人と動物の調和に関わることを学ぶ							
受講条件	伴侶動物学の単位認定							
事前学習について (テキスト・参考書等)	緑書房出版「動物看護の教科書(新訂版) 第3巻」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	.AAA、AAT、AAEについて説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
人と動物の関係と歴史について理解し、人と動物の関係や使役動物から介在動物について学ぶ。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題			授 業 内 容			備考	
第1回	人と動物の関係と歴史			人と動物の関係と歴史について				
第2回	学問への道/経緯			基盤になった研究について				
第3回	人と動物の関係①			家畜化について				
第4回	人と動物の関係②			人と犬の関係について				
第5回	人と動物の関係③			人と猫の関係について				
第6回	人と動物の関係④			人と馬の関係について				
第7回	人と動物の関係⑤			人と伴侶動物の新たな関係について				
第8回	人と動物の関係⑥			人と野生動物の関係について				
第9回	使役動物から介在動物へ①			使役動物について				
第10回	使役動物から介在動物へ②			介助犬について				
第11回	使役動物から介在動物へ③			介在動物/動物介在療法について				
第12回	使役動物から介在動物へ④			動物介在教育/動物介在活動について				
第13回	様々な人と動物の関係			子供と動物、高齢者と動物、罪を犯した人と動物の関係について				
第14回	授業振り返り/単位認定試験			授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける			※学生証が必要	
第15回	テスト返し/解説			前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する				
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点～90点
小テスト	○	○					20	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	○			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	動物福祉・倫理		単位数	1	科目コード	NB2007		
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	動物愛護や動物福祉(アニマルウェルフェア)およびその基礎となる生命倫理の考えかたについて学ぶ。							
授業の一般目標	人と動物の調和に関わることを学ぶ							
受講条件	動物看護科に在籍している							
事前学習について (テキスト・参考書等)	緑書房出版「動物看護の教科書(新訂版) 第3巻」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	動物愛護や福祉について説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
動物福祉の概念を理解し、動物の愛護や獣医療の現場で直面する生命倫理、動物保護施設収容動物福祉、産業動物の福祉を学ぶ。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容			備考			
第1回	動物福祉の概念	動物福祉と愛護の違い						
第2回	動物の愛護とは何か①	動物福祉の考え方を理解する						
第3回	動物の愛護とは何か②	動物の権利と動物福祉の思想について						
第4回	動物の愛護とは何か③	西欧と日本における動物福祉の考え方について						
第5回	日本の動物の愛護及び管理に関する法律	動物の愛護管理法の概要について						
第6回	獣医療の現場で直面する生命倫理①	獣医療における倫理/ペットロスについて						
第7回	獣医療の現場で直面する生命倫理②	安楽死(安楽殺)について						
第8回	動物保護施設収容動物福祉	動物保護施設の役割						
第9回	産業動物の福祉①	産業動物の福祉の歴史を知り5つの自由について						
第10回	産業動物の福祉②	産業動物における福祉上の問題点について						
第11回	実験動物の福祉	実験動物における福祉上の問題点について						
第12回	展示動物の福祉	展示動物における福祉上の問題点について						
第13回	野生動物の福祉	野生動物における福祉上の問題点について						
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける			※学生証が必要			
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点～90点
小テスト	○	○					20	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	○			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	動物行動学		単位数	1	科目コード	NB2008		
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	犬や猫の種としての行動様式の特徴を学び、問題行動の原因と対処、予防法を理解する。							
授業の一般目標	人と動物の調和に関わることを学ぶ							
受講条件	動物看護科に在籍している							
事前学習について (テキスト・参考書等)	緑書房出版「動物看護の教科書(新訂版) 第4巻」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	犬猫の種としての行動様式やライフステージにおける特徴を説明できる。 2. しつけやトレーニングの学習理論を説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
動物行動学の4つのと問いについて理解し、個体維持行動、発達過程と社会行動、問題行動、行動治療と予防を学ぶ。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容			備 考			
第1回	動物行動学の基礎	動物行動学の4つのと問い(適応・進化・メカニズム・発達)について						
第2回	個体維持行動	摂食、飲水行動、排泄行動、身づくろい行動、休憩行動について						
第3回	発達過程と社会行動①	発達ステージと各時期の行動学的特徴/生殖行動について						
第4回	発達過程と社会行動②	社会行動/攻撃行動と親和的行動について						
第5回	学習環境①	行動変化について						
第6回	学習環境②	古典的条件づけとオペラント条件づけについて						
第7回	問題行動①	問題行動の定義と要因について						
第8回	問題行動②	攻撃行動の種類、原因(動機づけ)と治療法について						
第9回	問題行動③	恐怖・不安に起因する問題行動の原因と治療法について						
第10回	問題行動④	不適切な排泄行動の原因(動機づけ)と治療法について						
第11回	問題行動⑤	老齢性認知機能低下の原因と症状と対応について						
第12回	問題行動と予防①	行動診療の進め方/コンサルテーション方法について						
第13回	問題行動と予防②	行動修正法と環境修正法の種類と適応/子犬や子猫の社会化教室について						
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける			※学生証が必要			
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点～90点
小テスト	○	○					20	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	○			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	伴侶動物Ⅰ		単位数	1	科目コード	NB2009		
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	伴侶動物の歴史や品種、飼育方法およびエキゾチックアニマルの生態について学ぶ。							
授業の一般目標	様々な動物の特性と人との関わりを理解する							
受講条件	動物看護科に在籍している							
事前学習について (テキスト・参考書等)	緑書房出版「動物看護の教科書(新訂版) 第4巻」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	エキゾチックアニマルとは何かを説明することができる。 2. 各動物の特徴や飼育方法について説明することができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
伴侶動物の歴史と代表的な品種について理解し、本校で飼育している小動物の飼育管理について学ぶ。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容			備 考			
第1回	ウサギの品種と特徴①	ウサギの生態について						
第2回	ウサギの品種と特徴②	ウサギの飼養管理・飼養施設/ウサギの主な疾病						
第3回	ウサギの品種と特徴③	ウサギの飼養管理・飼養施設/ウサギの主な疾病						
第4回	フェレットの特徴①	フェレットの生態について						
第5回	フェレットの特徴②	フェレットの飼養管理・飼養施設/フェレットの主な疾病						
第6回	モルモットの特徴①	モルモットの生態について						
第7回	モルモットの特徴②	モルモットの飼養管理・飼養施設/モルモットの主な疾病						
第8回	ハムスターの品種と特徴①	ハムスターの生態について						
第9回	ハムスターの品種と特徴②	ハムスターの飼養管理・飼養施設/ハムスターの主な疾病						
第10回	チンチラの特徴/ハリネズミの特徴	チンチラの生態について/ハリネズミの生態について						
第11回	飼鳥の品種と特徴①	飼鳥の飼養管理・飼養施設						
第12回	飼鳥の品種と特徴②	繁殖・発情行動について						
第13回	飼鳥の品種と特徴③	飼鳥の主な疾病						
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける			※学生証が必要			
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点～90点
小テスト	○	○					10	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎					20	良 (B):79点～70点
授業態度			○	○			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							－	不可(E):59点以下
演習							－	
出席			◎				10	
担当教員	北村 昌樹			実務経験紹介	https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/			

科目名	伴侶動物Ⅱ		単位数	1	科目コード	NB2010		
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	伴侶動物の歴史や品種、飼育方法およびエキゾチックアニマルの生態について学ぶ。							
授業の一般目標	様々な動物の特性と人との関わりを理解する							
受講条件	伴侶動物Ⅰの単位認定							
事前学習について (テキスト・参考書等)	緑書房出版「動物看護の教科書(新訂版) 第4巻」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	犬の品種の特徴や飼養管理について説明することができる。 2. 猫の品種の特徴や飼養管理について説明することができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
伴侶動物の歴史と代表的な品種について理解し、犬の品種尾と特徴、猫の品種と特徴を学ぶ。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容				備 考	
第1回	F C I インターナショナルドッグショー見学		校外授業 (出席・レポート提出にて評価)				2020年5月実施	
第2回								
第3回								
第4回	伴侶動物の種類と歴史		犬、猫、エキゾチックアニマについて					
第5回	犬の品種と特徴①		犬の歴史					
第6回	犬の品種と特徴②		犬の品種①(J K C 第 1 G ～ 第 4 G)					
第7回	犬の品種と特徴③		犬の品種②(J K C 第 5 G ～ 第 8 G)					
第8回	犬の品種と特徴④		犬の品種③(J K C 第 9 G ～ 第 10 G) / 犬の飼育管理(すまい)について					
第9回	犬の品種と特徴⑤		犬の飼育管理②(食事、健康管理) / 日々の関わりについて					
第10回	猫の品種と特徴①		猫の歴史について					
第11回	猫の品種と特徴②		猫の品種について					
第12回	猫の品種と特徴③		猫の飼育管理①(すまい、食事)について					
第13回	猫の品種と特徴④		猫の飼育管理②(健康管理)、日々の関わりについて					
第14回	授業振り返り/単位認定試験		授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける				※学生証が必要	
第15回	テスト返し/解説		前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点～90点
小テスト	○	○					20	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎	○				10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	○			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	北村 昌樹			実務経験紹介	https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/			

科目名	産業動物学			単位数	1	科目コード	NB2011	
授業形態	講義			対象学生	2年生	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	後期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	産業動物の歴史や品種、飼養管理法、および畜産業など社会との関わりについて学ぶ							
授業の一般目標	様々な動物の特性と人との関わりを理解する							
受講条件	伴侶動物学の単位認定							
事前学習について (テキスト・参考書等)	緑書房出版「動物看護の教科書(新訂版) 第4巻」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	産業動物用語について簡単に説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	主体性と積極性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
畜産(産業動物)について理解し、家畜の種類と特徴や主要家畜の飼養管理法を学ぶ。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題			授 業 内 容			備考	
第1回	家畜(産業動物)とは			産業動物について				
第2回	家畜の種類と特徴①			馬の歴史と品種、特性について				
第3回	家畜の種類と特徴②			牛の歴史と品種、特性について				
第4回	家畜の種類と特徴③			綿羊・山羊の歴史と品種、特性について				
第5回	家畜の種類と特徴④			豚の歴史と品種、特性について				
第6回	家畜の種類と特徴⑤			鶏の歴史と品種、特性について				
第7回	主要家畜の飼養管理法①			各家畜の消化器の形態と機能について①				
第8回	主要家畜の飼養管理法②			各家畜の消化器の形態と機能について②				
第9回	主要家畜の飼養管理法③			各家畜の性周期と繁殖整理について				
第10回	主要家畜の飼養管理法④			各家畜の飼育施設の概要について				
第11回	主要家畜の飼養管理法⑤			各家畜の飼養法について				
第12回	日本の畜産業の実際①			日本の酪農産業(酪農業)の概要について				
第13回	日本の畜産業の実際②			日本の牛肥育業の概要/養豚業の概要について				
第14回	授業振り返り/単位認定試験			授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける			※学生証が必要	
第15回	テスト返し/解説			前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する				
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点~90点
小テスト	○	○					20	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B):79点~70点
授業態度			○	○			10	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	実験動物学			単位数	1	科目コード	NB2012	
授業形態	講義			対象学生	2年生	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	後期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	実験動物の歴史や品種、飼養管理法、動物実験との関わりについて学ぶ。							
授業の一般目標	様々な動物の特性と人との関わりを理解する							
受講条件	伴侶動物学の単位認定							
事前学習について (テキスト・参考書等)	緑書房出版「動物看護の教科書(新訂版) 第4巻」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	実験動物学各種用語について簡単に説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	主体性と積極性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
実験動物の目的・意義について理解し、代表的な実験動物の飼育管理や繁殖法を学ぶ。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容				備考	
第1回	実験動物の基礎①		動物実験の目的と意義について					
第2回	実験動物の基礎②		動物種・品種・系統の概念について					
第3回	実験動物の基礎③		代表的な実験動物の飼育管理・繁殖法について					
第4回	実験動物の制御と疾患モデル動物		飼育管理法、各種動物の保定の仕方、個体管理と記録、管理者の教育と安全					
第5回	実験動物施設見学		実験動物施設を見学し、飼養管理の実際を学ぶ					
第6回								
第7回	授業振り返り/単位認定試験		授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける				※学生証が必要	
第8回	テスト返し/解説		前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点～90点
小テスト	○	○					20	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	○			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	野生動物学			単位数	1	科目コード	NB2013	
授業形態	講義			対象学生	2年生	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	前期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	日本の野生動物の種類と保全、動物園などの展示動物について学ぶ。							
授業の一般目標	様々な動物の特性と人との関わりを理解する							
受講条件	動物医療関連法規の単位認定							
事前学習について (テキスト・参考書等)	緑書房出版「動物看護の教科書(新訂版) 第4巻」							
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	実験動物学各種用語について簡単に説明ができる。							
□ 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
□ 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
□ 態度の観点	主体性と積極性を持った謙虚な振る舞いができる。							
□ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
野生動物の基礎・分類と生物多様性・絶滅危惧種の保安を学び、実際に動物園・水族館での研修を通りて理解を深める								
授業計画(授業単位)								
回	主 題			授 業 内 容			備 考	
第1回	野生動物学の基礎①			野生棒物の定義				
第2回	野生動物学の基礎②			生物多様性の概念について				
第3回	野生動物学の基礎③			野生動物の保全の意義について				
第4回	野生動物学の基礎④			野生動物による鳥獣害の現状について				
第5回	野生動物の分類と生物多様性①			日本在来の動物の生態および生息環境について				
第6回	野生動物の分類と生物多様性②			生物多様性条約および国家戦略について				
第7回	絶滅危惧種の保全①			絶滅危惧種の定義および含まれる動物について				
第8回	絶滅危惧種の保全②			絶滅危惧種となる原因/絶滅危惧種の保全方法について				
第9回	動物園と水族館の役割			展示動物の意義と動物園・塩族間の役割について				
第10回	動物園研修			京都市動物園研修			2020年7月実施	
第11回								
第12回	水族館研修			京都水族館研修			2020年9月実施	
第13回								
第14回	授業振り返り/単位認定試験			授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける			※学生証が必要	
第15回	テスト返し/解説			前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する				
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点～90点
小テスト	○	○					20	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	○			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	動物内科看護学			単位数	1	科目コード		
授業形態	講義			対象学生	1年次	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	前期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査や採血、投薬、輸液などについて理解する。							
授業の一般目標	動物の臨床看護に必要な知識を修得する							
受講条件	動物看護科に在籍している							
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD Press出版「認定動物看護師教育コアカリキュラム2019準拠 臨床動物看護学1」 EDUWARD Press出版「認定動物看護師教育コアカリキュラム2019準拠 動物看護実習テキスト 第2版」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 犬猫の健康管理について説明することができる。2. 内科診療の補助に必要な基礎知識を説明することができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
動物の保持・増進や診察補助に必要な技術、投薬・輸液に関わる技術を学ぶ。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題			授 業 内 容			備考	
第1回	動物の健康保持			入院動物の日常管理～入院動物に関するその他の業務				
第2回	衛生・安全管理と環境整備①			標準予防策の実践～感染コントロール				
第3回	衛生・安全管理と環境整備②			安全管理対策～動物に応じた入院室整備				
第4回	対動物関係の技術①			動物へのアプローチ～ハンドリングと保定法				
第5回	対動物関係の技術②			動物の処置や検査、状態にあわせた保定法～薬法				
第6回	動物の生活を援助するための技術①			接触行動のアセスメントと援助方法 排泄行動のアセスメントと排泄物の観察～外科的な排泄障害				
第7回	動物の生活を援助するための技術②			清潔行動のアセスメントと援助方法～休息・睡眠状態のアセスメントと援助方法				
第8回	診察時に必要な補助			診察時における動物看護師の役割～ 診察時に必要な器具とその準備、管理方法				
第9回	侵襲的知の介助技術			穿刺～侵襲の可能性を伴うその他の処置				
第10回	投薬の援助技術①			投薬に際して観察すべき項目～投与方法とその介助①				
第11回	投薬の援助技術②			投薬に際して観察すべき項目～投与方法とその介助②				
第12回	輸液に関わる技術			輸液処置時における動物看護師の役割～輸液処置中のモニタリング				
第13回	輸血に関わる技術			輸血とは～輸血後の血液検査				
第14回	授業振り返り/単位認定試験			授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける			※学生証が必要	
第15回	テスト返し/解説			前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する				
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点～90点
小テスト	○	○					20	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	○			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	動物外科看護学			単位数	2	科目コード	NC2102	
授業形態	講義			対象学生	1年生	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	後期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を修得する。							
授業の一般目標	動物の臨床看護に必要な知識を修得する							
受講条件	動物看護科に在籍している							
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD Press出版「認定動物看護師教育コアカリキュラム2019準拠 臨床動物看護学1」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	外科診療補助に必要な基礎知識を説明することができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
動物に対して外科処置を行う状況・目的を理解し、術前準備や麻酔、術中補助、術後管理、救急救命、理学療法を学ぶ。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容				備考	
第1回	動物に対して外科処置を行う状況・目的		外科診療時の補助に必要な技術					
第2～3回	術前準備①		術前手続きや術前検査/無菌的処置の重要性について					
第4回	術前準備②		手術器具の準備、滅菌法について					
第5回	術前準備③		手術室の衛生的清掃と機器類、準備について					
第6～8回	術前準備④		機器台の準備/術者に必要な準備について					
第9回	麻酔①		麻酔処置時における動物看護師の役割について					
第10～12回	麻酔②		麻酔リスク/麻酔前投薬/注射麻酔の手法/吸入麻酔の手法について					
第13～18回	術中補助①		代表的な手術機器の名称、使用法について					
第19回	術中補助②		直接補助、間接補助の内容について(麻酔モニタリング)					
第20～21回	術後管理①		麻酔覚醒後の動物のモニタリングについて					
第22～24回	術後管理②		痛みと創傷管理					
第25～26回	理学療法		理学療法の目的と意義について				※2021年8月実施 ‘ペットファースト’講座にて	
第27回	救急救命処置Ⅰ①		救命方法の知識の実践①					
第28回	救急救命処置Ⅰ②		救命方法の知識の実践②					
第29～30回	授業振り返り/単位認定試験/テスト返し/解説		授業振り返り/授業内にて前期末試験/試験の問題の意義/復習する				※学生証が必要	
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点～90点
小テスト	○	○					20	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	○			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	動物臨床看護学総論			単位数	1	科目コード	NC2003	
授業形態	講義			対象学生	1年生	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	後期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	動物看護過程の一連のプロセスを学び、事例ごとの個性に重きを置いた動物看護の基本的な考え方を修得する。							
授業の一般目標	動物の臨床看護に必要な知識を修得する							
受講条件	動物看護科に在籍している							
事前学習について (テキスト・参考書等)	緑書房出版「動物看護の教科書(新訂版) 第5巻」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	動物看護の基本的な考えについて説明することができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
動物看護学概論で学習した動物看護過程の展開の復習とさらなる展開を事例を通して学ぶ。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容				備考	
第1回	動物看護過程とは何か①		動物看護の目的や意義、方法の理解について					
第2回	動物看護過程とは何か②		動物看護過程の各ステップの理解について					
第3回	動物看護記録の作成①		動物看護記録作成の目的					
第4回	動物看護記録の作成②		動物看護記録作成の留意点					
第5回	動物看護記録の作成③		動物看護記録作成の記入時注意点					
第6回	動物看護記録の作成④		評価(動物看護評価)、動物看護過程を用いる利点					
第7回	事例で考える動物看護過程の実践①		事例を用いて、動物看護過程を考える					
第8回	事例で考える動物看護過程の実践②		事例を用いて考えた動物看護過程を発表する					
第9回	動物看護業務①		事故管理、防止システムについて					
第10回	動物看護業務②		若齢動物看護の特徴について					
第11回	動物看護業務③		高齢動物看護の特徴について					
第12回	死の看取りへの関わり①		ターミナルケアの目的と意義について					
第13回	死の看取りへの関わり②		死亡した動物への対応、エンゼルケアについて					
第14回	授業振り返り/単位認定試験		授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける				※学生証が必要	
第15回	テスト返し/解説		前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点～90点
小テスト	○	○					20	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	○			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	動物臨床看護学各論Ⅰ			単位数	2	科目コード	NC2004	
授業形態	講義			対象学生	2年生	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	前期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的・目標とする資格・検定等)	様々な疾患の病態整理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。 各々の機能障害をもつ動物に対してどのような看護を提供すべきか、評価と介入の方法を修得する。							
授業の一般目標	動物の臨床看護に必要な知識を修得する							
受講条件	動物臨床看護学総論の単位認定							
事前学習について (テキスト・参考書等)	緑書房出版「動物看護の教科書(新訂版) 第5巻」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	各症状別に必要な処置、治療、看護について説明することができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
症状別の動物看護から代表的な徴候(症状)を学ぶ								
授業計画(授業単位)								
回	主 題			授 業 内 容			備考	
第1～2回	症状別の動物看護【痛み】①			疼痛（痛み）とは、疼痛の種類、痛みを感じるメカニズム				
第3～4回	症状別の動物看護【痛み】②			疼痛の程度、有通動物のハンドリングについて				
第5～6回	症状別の動物看護【かゆみ】			かゆみのある動物の特徴、かゆみのある動物の看護の注意点について				
第7～8回	症状別の動物看護【吐出や嘔吐】			吐出や嘔吐のある動物について				
第9～10回	症状別の動物看護【排便の異常】			下痢、便秘、排尿異常のある動物について				
第11～12回	症状別の動物看護【呼吸異常】			呼吸異常のある動物について				
第13～14回	症状別の動物看護【食欲不振および廃絶】			食欲不振および廃絶の起こってる動物について				
第15～16回	代表的な犬と猫の疾患【脳神経系疾患】			各疾患の概要・症状・処置・治療について				
第17～18回	代表的な犬と猫の疾患【筋骨格系および整形外科疾患】			筋骨格系疾患・整形外科疾患とは、検査について				
第19～20回	代表的な犬と猫の疾患【消化器・栄養代謝性疾患】①			消化器・栄養代謝性疾患とは、検査について				
第21～22回	代表的な犬と猫の疾患【消化器・栄養代謝性疾患】②			各疾患の概要・症状・処置・治療について				
第23～24回	代表的な犬と猫の疾患【呼吸器疾患】①			呼吸器系疾患とは、検査について				
第25～26回	代表的な犬と猫の疾患【呼吸器疾患】②			各疾患の概要・症状・処置・治療について				
第27～28回	授業振り返り/単位認定試験			授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける			※学生証が必要	
第29～30回	授業振り返り/単位認定試験/テスト返し/解説			授業振り返り/授業内にて前期末試験/試験の問題の意義/復習する			※学生証が必要	
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀（S）:100点～90点
小テスト	○	○					20	優（A）:89点～80点
宿題授業外レポート		◎					10	良（B）:79点～70点
授業態度			○	○			10	可（D）:69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	動物臨床看護学各論Ⅱ			単位数	2	科目コード	NC2005	
授業形態	講義			対象学生	2年生	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	後期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	様々な疾患の病態整理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。 各々の機能障害をもつ動物に対してどのような看護を提供すべきか、評価と介入の方法を修得する。							
授業の一般目標	動物の臨床看護に必要な知識を修得する							
受講条件	動物臨床看護学各論Ⅰの単位認定							
事前学習について (テキスト・参考書等)	緑書房出版「動物看護の教科書(新訂版) 第5巻」							
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	各症状別に必要な処置、治療、看護について説明することができる。							
□ 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
□ 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
□ 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
□ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
症状別の動物看護から代表的な徴候(症状)を学ぶ								
授業計画(授業単位)								
回	主 題			授 業 内 容			備考	
第1～2回	代表的な犬と猫の疾患【循環器疾患】①			循環器系疾患とは、検査について				
第3～4回	代表的な犬と猫の疾患【循環器疾患】②			各疾患の概要・症状・処置・治療について				
第5～6回	代表的な犬と猫の疾患【泌尿器疾患】①			泌尿器系疾患とは、検査について				
第7～8回	代表的な犬と猫の疾患【泌尿器疾患】②			各疾患の概要・症状・処置・治療について				
第9～10回	代表的な犬と猫の疾患【繁殖・生殖器系・新生子疾患】①			繁殖・生殖器・新生子系疾患とは、検査について				
第11～12回	代表的な犬と猫の疾患【繁殖・生殖器系・新生子疾患】②			各疾患の概要・症状・処置・治療について				
第13～14回	代表的な犬と猫の疾患【皮膚科疾患】①			皮膚科疾患とは、検査について				
第15～16回	代表的な犬と猫の疾患【皮膚科疾患】②			各疾患の概要・症状・処置・治療について				
第17～18回	代表的な犬と猫の疾患【眼科疾患】			眼科疾患とは、検査/各疾患の概要・症状・処置・治療について				
第19～20回	代表的な犬と猫の疾患【血液疾患】			血液疾患とは、検査/各疾患の概要・症状・処置・治療について				
第21～22回	代表的な犬と猫の疾患【内分泌系疾患】①			内分泌系疾患とは、検査について				
第23～24回	代表的な犬と猫の疾患【内分泌系疾患】②			各疾患の概要・症状・処置・治療について				
第25～26回	担がん動物の看護			がんの基礎知識(腫瘍の種類、症状など)/がん治療での動物看護師の役割につい				
第27～28回	授業振り返り/単位認定試験			授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける			※学生証が必要	
第29～30回	授業振り返り/単位認定試験/テスト返し/解説			授業振り返り/授業内にて前期末試験/試験の問題の意義/復習する			※学生証が必要	
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点～90点
小テスト	○	○					20	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	○			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	動物臨床栄養学Ⅰ		単位数	1	科目コード	NC2006		
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	5大栄養素やその代謝などの基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの違い、各種療法食の特色や給餌方法など臨床栄養学を修得する。							
授業の一般目標	動物病院業務に必要な知識を修得する							
受講条件	動物看護科に在籍している							
事前学習について (テキスト・参考書等)	緑書房出版「動物看護の教科書(新訂版) 第6巻」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	大栄養素とその代謝について説明することができる。 2. ライフステージや疾患別の療法食について説明することができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
5大栄養素＋水(6大栄養素)を理解し、ライフステージによる栄養管理や疾患別による栄養特性を学ぶ。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	動物栄養学総論①	6大栄養素 (1. タンパク質、2. 脂肪(脂質))						
第2回	動物栄養学総論②	6大栄養素 (3. 炭水化物、4. ビタミン、5. ミネラル、6. 水)						
第3回	動物栄養学総論③／犬猫の必要栄養素の違い	過剰症と欠乏症／食性の違い						
第4回	ペットフードの表記	ペットフード安全法で規定されている表記						
第5回	ライフステージによる栄養管理①	犬のライフステージについて (成長期、維持期)						
第6回	ライフステージによる栄養管理②	猫のライフステージについて (成長期、維持期) 犬と猫の加齢性変化						
第7回	ライフステージによる栄養管理③	繁殖期・妊娠期・授乳期の栄養管理						
第8回	B C S評価およびカロリー計算	B C Sとは／カロリー計算 (食物のカロリー・犬や猫のエネルギー要求量)						
第9回	肥満と消瘦／フードの給与回数、給与方法	肥満と消瘦とは／フードのタイプ：目的別の分類、給与回数、給与方法						
第10回	手作り食	嗜好性とは／ペットフードの適切な取扱い／手作り食						
第11回	疾患別による栄養特性 (下部尿路疾患①)	食事療法食の表記と取扱い/下部尿路疾患とは／猫の特発性膀胱炎						
第12回	疾患別による栄養特性 (下部尿路疾患②)	尿路結石について①						
第13回	疾患別による栄養特性 (下部尿路疾患③)	尿路結石について②						
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける				※学生証が必要		
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点～90点
小テスト	○	○					20	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	○			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							－	不可(E):59点以下
演習							－	
出席			◎				10	
担当教員	丸山 圭太			実務経験紹介	https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/mariyama/			

科目名	動物臨床栄養学Ⅱ		単位数	1	科目コード	NC2007		
授業形態	講義		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的・目標とする資格・検定等)	5大栄養素やその代謝などの基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの違い、各種療法食の特色や給餌方法など臨床栄養学を修得する。							
授業の一般目標	動物病院業務に必要な知識を修得する							
受講条件	動物臨床栄養学Ⅰの単位認定							
事前学習について (テキスト・参考書等)	緑書房出版「動物看護の教科書(新訂版) 第6巻」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	疾患別の療法食について説明することができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
5大栄養素＋水(6大栄養素)を理解し、疾患別による栄養特性、強制給餌と経管・静脈栄養素を学ぶ。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容			備考		
第1回	疾患別による栄養特性（皮膚疾患①）		皮膚疾患の種類／食物アレルギー①					
第2回	疾患別による栄養特性（皮膚疾患②）		食物アレルギー②／犬アトピー性皮膚炎					
第3回	疾患別による栄養特性（肥満）		肥満について					
第4回	疾患別による栄養特性（下痢・猫の便秘）		下痢について／猫の便秘について					
第5回	疾患別による栄養特性（心臓病①）		心臓のしくみ					
第6回	疾患別による栄養特性（心臓病②）		僧帽弁閉鎖不全症とは					
第7回	疾患別による栄養特性（慢性腎臓病①）		腎臓のしくみ					
第8回	疾患別による栄養特性（慢性腎臓病①）		慢性腎臓病について					
第9回	疾患別による栄養特性（肝臓病）		肝臓のしくみ／肝臓病について					
第10回	疾患別による栄養特性（糖尿病）		糖尿病について					
第11回	疾患別による栄養特性（関節疾患）		関節疾患について					
第12回	強制的な給餌方法/経路別の栄養		強制給餌方法/経管・計静脈による栄養の種類と違い					
第13回	中毒物・与えてはいけないもの		犬・猫に危険な、あるいは気をつけたい主な食材とその理由					
第14回	授業振り返り/単位認定試験		授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける			※学生証が必要		
第15回	テスト返し/解説		前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀（S）:100点～90点
小テスト	○	○					20	優（A）:89点～80点
宿題授業外レポート		◎					10	良（B）:79点～70点
授業態度			○	○			10	可（D）:69点～60点
発表・作品							－	不可(E):59点以下
演習							－	
出席			◎				10	
担当教員	丸山 圭太			実務経験紹介	https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/maruyama/			

科目名	動物臨床検査学Ⅰ			単位数	1	科目コード		
授業形態	講義			対象学生	1年次	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	前期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	様々な臨床検査の原理や方法、意義について学び、検体や測定機器の正しい扱い方、所見の記録方法を習得する。							
授業の一般目標	動物病院業務に必要な知識を修得する							
受講条件	動物看護科に在籍している							
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD Press出版「認定動物看護師教育コアカリキュラム2019準拠 臨床動物看護学2」 EDUWARD Press出版「認定動物看護師教育コアカリキュラム2019準拠 動物看護実習テキスト 第2版」							
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	各種検査の種類や方法、意義を理解した上で、正常値や異常値を判断できる。							
□ 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
□ 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追及することができる。							
□ 態度の観点	主体性と積極性を持った謙虚な振る舞いができる。							
□ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
臨床検査の基礎を理解し、血液検査や尿検査、糞便検査、細胞診と病理組織検査、心電図検査と血圧検査を学ぶ。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題			授 業 内 容			備考	
第1回	臨床検査の基礎			臨床検査～主な検査機器				
第2回	血液検査①			採決部位および採血方法～血漿、血清の分離法				
第3回	血液検査②			全血球計算(CBC)～血液塗抹標本の観察法				
第4回	血液検査③			ヘマトクリット管を用いた検査、凝固検査				
第5回	血液検査④			生化学検査＜総論、各論＞				
第6回	血液検査⑤			血液ガス分析、免疫学的検査				
第7回	尿検査①			尿検体の採取方法～検査手順				
第8回	尿検査②			検査手順～尿沈渣標本に出現する有形成分				
第9回	糞便検査			糞便検査の目的と動物看護師の役割～その他の微生物検査				
第10回	細胞診と病理組織検査①			細胞診検査				
第11回	細胞診と病理組織検査②			病理組織検査				
第12回	遺伝子検査			遺伝子検査とは～遺伝子検査の対象疾患				
第13回	心電図検査と血圧検査			心電計の分類と構造～血圧の評価				
第14回	授業振り返り/単位認定試験			授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける			※学生証が必要	
第15回	テスト返し/解説			前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する				
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点～90点
小テスト	○	○					20	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	○			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	動物臨床検査学Ⅱ			単位数	1	科目コード		
授業形態	講義			対象学生	1年次	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	後期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	様々な臨床検査の原理や方法、意義について学び、検体や測定機器の正しい扱い方、所見の記録方法を習得する。							
授業の一般目標	動物病院業務に必要な知識を修得する							
受講条件	動物臨床検査学Ⅰの単位認定							
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD Press出版「認定動物看護師教育コアカリキュラム2019準拠 臨床動物看護学2」 EDUWARD Press出版「認定動物看護師教育コアカリキュラム2019準拠 動物看護実習テキスト 第2版」							
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	各種検査の種類や方法、意義を理解した上で、正常値や異常値を判断できる							
□ 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
□ 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追及することができる。							
□ 態度の観点	主体性と積極性を持った謙虚な振る舞いができる。							
□ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
臨床検査の基礎を理解し、X線検査とCT/MRI検査や、超音波検査、神経学的検査、眼科検査、皮膚と耳の検査を学ぶ。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題			授 業 内 容			備考	
第1回	X線検査			X線検査の目的と動物看護師の役割～放射線とX線撮影の原理				
第2回	X線検査			撮影条件とX線フィルム～撮影体位と方法				
第3回	X線検査			造影検査、被曝と被曝管理				
第4回	超音波検査①			超音波診断装置の原理と構造～超音波検査の実際				
第5回	超音波検査②			超音波検査でわかること～超音波診断装置を用いた特殊な検査				
第6回	内視鏡検査			内視鏡の分類と構造～スコープの洗浄と消毒				
第7回	その他の画像検査			コンピュータ断層撮影法(CT)、磁気共鳴画像法(MRI)				
第8回	神経学的検査①			検査環境・必要な道具～実際の検査方法				
第9回	神経学的検査②			実際の検査方法				
第10回	眼科検査①			視覚検査～シルマー試験				
第11回	眼科検査②			眼圧測定～眼底検査				
第12回	皮膚と耳の検査①			皮膚科の検査				
第13回	皮膚と耳の検査②			耳介の検査、耳道の検査				
第14回	授業振り返り/単位認定試験			授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける			※学生証が必要	
第15回	テスト返し/解説			前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する				
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点～90点
小テスト	○	○					20	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	○			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	動物医療コミュニケーション		単位数	1	科目コード	NC2010		
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	日常健康管理に関わる飼い主教育や事前問診、入院動物の容態説明、院内における他のスタッフとのコミュニケーションの基礎について学ぶ。							
授業の一般目標	動物病院業務に必要な知識を修得する							
受講条件	動物看護科に在籍している							
事前学習について (テキスト・参考書等)	緑書房出版「動物看護の教科書(新訂版) 第6巻」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 動物の健康管理について飼い主向けに説明できる。 2. 院内におけるコミュニケーションの重要性を説明することができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
クライアントエデュケーションを理解し、クライアント(飼い主)が求める8つの条件や院内コミュニケーション、グリーフケアを学ぶ。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	クライアントエデュケーション①	クライアントエデュケーション概論について						
第2回	クライアントエデュケーション②	クライアントサービスについて						
第3回	クライアントエデュケーション③	適正飼育、健康管理の必要な情報提供/動物と飼い主の良好な関係構築について						
第4回	クライアントエデュケーション④	病気の適切な予防法について①						
第5回	クライアントエデュケーション⑤	病気の適切な予防法について②						
第6回	クライアントエデュケーション⑥	病気の適切な予防法について③						
第7回	クライアントエデュケーション⑦	接遇とホスピタリティについて						
第8回	クライアントエデュケーション⑧	在宅治療(往診)におけるコミュニケーション技能について						
第9回	院内コミュニケーション①	飼い主教育を主体としたインフォームドコンセントについて						
第10回	院内コミュニケーション②	医療面接のプロセス/チーム医療に関するコミュニケーション技能について						
第11回	院内マネージメント①	受付業務(診療受付、電話対応、清算、トラブル対応など)について						
第12回	院内マネージメント②	物品購入や管理/動物保健医療について						
第13回	グリーフケア	看取り、お別れ、お見送り、ペットロスのこと						
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける					※学生証が必要	
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点~90点
小テスト	○	○					20	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B):79点~70点
授業態度			○	○			10	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	丸山 圭太			実務経験紹介	https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/maruyama/			

科目名	動物形態機能学実習Ⅰ			単位数	1	科目コード	ND2001	
授業形態	実習			対象学生	1年生	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	前期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	動物の身体の形態と機能を、骨格標本や臓器模型、主要臓器の組織像などを通じて学ぶ。							
授業の一般目標	修得した知識の実践力を身に付ける							
受講条件	動物看護科に在籍している							
事前学習について (テキスト・参考書等)	インターズー出版「動物看護実習テキスト第2版」、学窓社出版「犬の解剖カラーリングアトラス」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	生体を外から観察した際に解剖学的なイメージができる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
骨格標本や模型を用いながらの実習授業および各種専門分野の企業連携授業。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	動物形態機能学実習概論	動物形態機能学実習で学ぶべきことは何か、何のために学ぶのかを知る						
第2回	骨格、筋肉および内臓の形態と機能の理解	骨格：形態と機能						
第3回		骨格：位置の把握						
第4回		筋肉：形態と機能						
第5回		筋肉：位置の把握						
第6回		筋肉：主要な筋の働き及び停止部・起始部						
第7回		神経：形態と機能						
第8回		神経：その筋を支配するか神経損傷時の症状						
第9回		各部位・臓器の位置や関係性						
第10回	主要臓器の組織像観察	筋						
第11回		内臓						
第12回	顕微鏡操作法	顕微鏡の各部位と鏡検倍率、鏡検条件の仕組み						
第13回		正しい操作とメンテナンス法						
第14回	授業振り返り／単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける					※学生証が必要	
第15回	テスト返し／解説	前回は行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○	○	○		50	秀 (S):100点～90点
小テスト							-	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート	○		○				10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	◎			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習			○	○			20	
出席			○				10	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	動物形態機能学実習Ⅱ			単位数	1	科目コード	ND2002	
授業形態	実習			対象学生	1年生	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	後期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	動物の身体の形態と機能を、骨格標本や臓器模型、主要臓器の組織像などを通じて学ぶ。							
授業の一般目標	修得した知識の実践力を身に付ける							
受講条件	動物形態機能学実習Ⅰの単位認定							
事前学習について (テキスト・参考書等)	インターズー出版「動物看護実習テキスト第2版」、学窓社出版「犬の解剖カラーリングアトラス」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 生体を外から観察した際に解剖学的なイメージができる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
骨格標本や模型を用いながらの実習授業および各種専門分野の企業連携授業。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容				備 考	
第1回	各種専門分野の連携授業		形態機能学：鳥類				野生動物学専門講師による特別授業	
第2回			形態機能学：爬虫類				野生動物学専門講師による特別授業	
第3回			形態機能学：両生類				野生動物学専門講師による特別授業	
第4回			形態機能学：魚類				野生動物学専門講師による特別授業	
第5回			形態機能学：眼科分野				製薬企業による特別授業	
第6回			形態機能学：デンタルケア、皮膚系				製薬企業による特別授業	
第7回	授業振り返り/単位認定試験		授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける。				※学生証が必要	
第8回	テスト返し/解説		前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○	○	○		50	秀 (S):100点～90点
小テスト							-	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート	○		○				10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	◎			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習			○	○			20	
出席			○				10	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	産業動物学実習			単位数	1	科目コード	ND2003	
授業形態	実習			対象学生	2年生	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	後期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	産業動物の歴史や品種、飼養管理法、および畜産業など社会との関わりについて学ぶ							
授業の一般目標	様々な動物の特性と人との関わりを理解する							
受講条件	産業動物学の履修を履修している。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	適宜資料配布							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	生体を外から観察した際に解剖学的なイメージができる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
校外実習およびそれに伴う事前・事後学習								
授業計画(授業単位)								
回	主 題			授 業 内 容			備考	
第1回	事前学習			1. 肉用牛実習にて何を学ぶか・心構え 2. 乳用牛および養豚実習にて何を学ぶか・心構え				
第2回	肉用牛実習			農業系高校にて肉用牛の飼養管理を実際に体験する				
第3回								
第4回	乳用牛および養豚実習			農業系高校にて乳用牛および豚の飼養管理を実際に体験する				
第5回								
第6回	事後学習			実習で学んだことをまとめる				
第7回	授業振り返り/単位認定試験（実習レポート）			実習授業を振り返り、レポート課題を提出する。				
第8回	レポート返却/発表と講評			学んだこと、反省点をクラス内で発表・意見交換				
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○	○	○		50	秀 (S):100点～90点
小テスト							-	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート	○		○				10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	◎			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習			○	○			20	
出席			○				10	
担当教員				実務経験紹介				-

科目名	動物内科看護学実習Ⅰ			単位数	1	科目コード	ND2004	
授業形態	実習			対象学生	1年生	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	前期	教員実務経験対象	有	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。							
授業の一般目標	修得した知識の実践力を身に付ける							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	緑書房出版「動物看護の教科書(新訂版)第5巻」、インターズー出版「動物看護実習テキスト第2版」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	日常的な健康管理や内科診療補助等の各種技法や手順を説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	日常的な健康管理や内科診療補助等の各種技法を適宜実施できる。							
授業計画(全体)								
動物の基本的な扱い方が出来るように、保定法やバイタルチェックと体重測定法を学ぶ。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題			授 業 内 容			備考	
第1回	実習に参加する動物の健康状態の観察と把握							
第2回	被毛や皮膚の管理と実践			ブラッシング、歯磨き等				
第3回	運動の管理と実践 排泄の管理と実践			散歩、個体に適した運動量の算出、安全な歩かせ方、歩行異常の見極めなど 衛生的な排泄、排泄による健康管理(異常の早期発見、におい、便の状態観察)				
第4回	病気の早期発見のための管理・定期的な健康診断の実践			健常時と異常時のしぐさ・容態の違いを知る。 体重測定、検尿、検便、血液検査、必要に応じて継続的な検査				
第5回	保定法《実践》①			保定とは、保定の目的、注意点				
第6回	保定法《実践》②			獣医学的な処置に適した保定、保定の種類				
第7回	保定法《実践》③			獣医学的な処置に適した保定、保定の種類				
第8回	バイタルチェックと体重測定方法の確認と実践①			体重測定、バイタルチェック				
第9回	バイタルチェックと体重測定方法の確認と実践②			体重測定、バイタルチェック				
第10回	輸液管理①			輸液準備(輸液ラインに必要な機材準備、留置針設置)				
第11回	輸液管理②			輸液準備(輸液ラインの接続)				
第12回	注射針、シリンジ等の取り扱い			注射器の取り扱い				
第13回	薬の取り扱い			調剤のための道具の使用方法(計量、分包、錠剤(分割と粉碎))				
第14回	授業振り返り/単位認定試験			授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける			※学生証が必要	
第15回	テスト返し/解説			前回は行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する				
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○	○	○		50	秀 (S):100点～90点
小テスト							-	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート	○		○				10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	◎			10	可 (D):69点～60点
発表・作品			○	○			10	不可(E):59点以下
演習			○	○			10	
出席			○				10	
担当教員	丸山 圭太			実務経験紹介	https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/maruyama/			

科目名	動物内科看護学実習Ⅱ			単位数	2	科目コード	ND2005	
授業形態	実習			対象学生	2年生	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	前期	教員実務経験対象	有	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。							
授業の一般目標	修得した知識の実践力を身に付ける							
受講条件	動物内科看護学実習Ⅰの単位認定							
事前学習について (テキスト・参考書等)	緑書房出版「動物看護の教科書(新訂版)第5巻」、インターズー出版「動物看護実習テキスト第2版」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	日常的な健康管理や内科診療補助等の各種技法や手順を説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	日常的な健康管理や内科診療補助等の各種技法を適宜実施できる。							
授業計画(全体)								
動物の基本的な扱い方が出来るように、動物に応じたハンドリングや基本的なグルーミングを行う。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容				備考	
第1回	グルーミング実習Ⅰ ①		基本的なグルーミング(爪切り、耳掃除、肛門嚢処置)/ブラッシング					
第2回	グルーミング実習Ⅰ ②		シャンプー実習					
第3回	グルーミング実習Ⅰ ③							
第4回	グルーミング実習Ⅰ ④		基本的なグルーミング(爪切り、耳掃除、肛門嚢処置)/ブラッシング					
第5回	グルーミング実習Ⅰ ⑤		シャンプー実習					
第6回	グルーミング実習Ⅰ ⑥							
第7回	グルーミング実習Ⅰ ⑦		基本的なグルーミング(爪切り、耳掃除、肛門嚢処置)/ブラッシング					
第8回	グルーミング実習Ⅰ ⑧		シャンプー実習					
第9回	グルーミング実習Ⅰ ⑨							
第10回	グルーミング実習Ⅰ ⑩		基本的なグルーミング(爪切り、耳掃除、肛門嚢処置)/ブラッシング					
第11回	グルーミング実習Ⅰ ⑪		シャンプー実習					
第12回	グルーミング実習Ⅰ ⑫							
第13回	グルーミング実習Ⅰ ⑬		基本的なグルーミング(爪切り、耳掃除、肛門嚢処置)(試験)/ブラッシング(試験)					
第14回	グルーミング実習Ⅰ ⑭		シャンプー実習(試験)					
第15回	グルーミング実習Ⅰ ⑮							
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○	○	○		50	秀(S):100点～90点
小テスト							－	優(A):89点～80点
宿題授業外レポート	○		○				10	良(B):79点～70点
授業態度			○	◎			10	可(D):69点～60点
発表・作品							－	不可(E):59点以下
演習			○	○			20	
出席			○				10	
担当教員	丸山 圭太			実務経験紹介	https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/maruyama/			

科目名	動物臨床検査学実習Ⅰ			単位数	1	科目コード	ND2006	
授業形態	実習			対象学生	1年生	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	前期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	検体検査および生体検査に必要な手技や機器の扱い方など、動物臨床検査学で学んだ知識の実践力を修得する。							
授業の一般目標	修得した知識の実践力を身に付ける							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	緑書房出版「動物看護の教科書(新訂版)第6巻」、インターブー出版「動物看護実習テキスト第2版」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	.各種検査の種類や方法、意義を理解した上で、正常値や異常値を判断できる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
動物臨床検査学Ⅰで学んだことを踏まえた実習授業。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題			授 業 内 容			備考	
第1回	動物臨床検査学総論			臨床検査の種類と目的				
第2回	検体検査			マイクロピペットや遠心分離機を正しく操作				
第3回	検体検査			CBC検査の手技の確認				
第4回	検体検査			血漿、血清を分離/血液塗抹標本を作製、染色				
第5回	検体検査			血液塗抹標本を観察/血液生化学検査を実施				
第6回	検体検査			簡易血清学的検査/輸血時のクロスマッチ試験				
第7回	検体検査			尿検査/物理化学性状を記録/尿沈渣を観察				
第8回	検体検査			糞便検査/虫卵・原虫を検査/細胞診の準備、補助				
第9回	生体検査			心電図検査を実施				
第10回	生体検査			X線撮影の基本的な保定/放射線防護の装置の扱えと機器に関わる準備、設定				
第11回	生体検査			超音波検査のための基本的な保定				
第12回	生体検査			神経学的検査の所見を記録				
第13回	生体検査			眼科検査/皮膚検査の補助				
第14回	授業振り返り/単位認定試験			授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける			※学生証が必要	
第15回	テスト返し/解説			前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する				
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○	○	○		50	秀 (S):100点～90点
小テスト							-	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート	○		○				10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	◎			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習			○	○			20	
出席			○				10	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	動物臨床検査学実習Ⅱ			単位数	2	科目コード	ND2007	
授業形態	実習			対象学生	1年生	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	後期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的・目標とする資格・検定等)	検体検査および生体検査に必要な手技や機器の扱い方など、動物臨床検査学で学んだ知識の実践力を修得する。							
授業の一般目標	修得した知識の実践力を身に付ける							
受講条件	動物臨床検査学実習Ⅰの単位認定							
事前学習について (テキスト・参考書等)	緑書房出版「動物看護の教科書(新訂版)第6巻」、インターブー出版「動物看護実習テキスト第2版」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	各種検査の種類や方法、意義を理解した上で、正常値や異常値を判断できる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
動物臨床検査学Ⅱで学んだことを踏まえた実習授業。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容				備 考	
第1回	動物臨床検査学総論		臨床検査の種類と目的					
第2回	検体検査		マイクロピペットや遠心分離機を正しく操作					
第3回	検体検査		CBC検査の手技の確認					
第4回	検体検査		血漿、血清を分離/血液塗抹標本を作製、染色					
第5回	検体検査		血液塗抹標本を観察/血液生化学検査を実施					
第6回	検体検査		簡易血清学的検査/輸血時のクロスマッチ試験					
第7回	検体検査		尿検査/物理化学性状を記録/尿沈渣を観察					
第8回	検体検査		糞便検査/虫卵・原虫を検査/細胞診の準備、補助					
第9回	生体検査		心電図検査を実施					
第10回	生体検査		X線撮影の基本的な保定/放射線防護の装置の扱いと機器に関わる準備、設定					
第11回	生体検査		超音波検査のための基本的な保定					
第12回	生体検査		神経学的検査の所見を記録					
第13回	生体検査		眼科検査/皮膚検査の補助					
第14回	生体検査		外耳道検査の補助					
第15回	授業振り返り/単位認定試験/テスト返し/解説		後期末試験実施/試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する				※学生証が必要	
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○	○	○		50	秀 (S):100点～90点
小テスト							-	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート	○		○				10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	◎			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習			○	○			20	
出席			○				10	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	動物外科看護学実習Ⅰ			単位数	1	科目コード	ND2008	
授業形態	実習			対象学生	1年生	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	後期	教員実務経験対象	有	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	手術準備(動物・手術器具)、術中・術後管理、麻酔準備や麻酔管理や麻酔監視、手術の補助、救急救命など動物外科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。							
授業の一般目標	修得した知識の実践力を身に付ける							
受講条件	動物外科看護学を履修している。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	緑書房出版「動物看護の教科書(新訂版) 第6巻」、インターズー出版「動物看護実習テキスト第2版」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 手術準備や術中・術後管理等の各種技法や手順を説明できる。 2. 救急救命の各種技法や手順を説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	手術準備や術中・術後管理等の各種技法を適宜実施できる。 2. 救急救命の各種技法を適宜実施できる。							
授業計画(全体)								
動物外科看護学の理論を基に手術における実践及び術後管理や救命救急を学ぶ								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容					備考	
第1回	リネン類のたたみ方	手術衣・ドレープ類を準備し、滅菌することができる						
第2回	手術室準備・気管内挿管	手術室の準備を行うことができる 気管内挿管の準備・補助ができる						
第3回	手指消毒・ガウン装着①	手指消毒・手術着装着が正しくできる						
第4回	手指消毒・ガウン装着②							
第5回	手袋装着	closed cuff methodで3分以内に手術手袋を装着できる						
第6回	各種器械使用方法	各種手術器械が正しく使うことができる						
第7回	手術器具準備・器具滅菌	手術器具の準備・滅菌ができる						
第8回	救急救命処置Ⅰ①	救命方法の知識の実践①					※2020年12月実施 「ペットファーストエイド」講座にて	
第9回	救急救命処置Ⅰ②	救命方法の知識の実践②						
第10回	救急救命処置Ⅰ③	救命方法の知識の実践③						
第11回	救急救命処置Ⅰ④	救命方法の知識の実践④						
第12回	救急救命処置Ⅰ⑤	救命方法の知識の実践⑤						
第13回	救急救命処置Ⅰ⑥	救命方法の知識の実践⑥						
第14回	授業振り返り／単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける					※学生証が必要	
第15回	テスト返し／解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○	○	○		50	秀 (S):100点～90点
小テスト							－	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート	○		○				10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	◎			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							－	不可(E):59点以下
演習			○	○			20	
出席			○				10	
担当教員	北村 昌樹			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/			

科目名	動物外科看護学実習Ⅱ			単位数	2	科目コード	ND2009	
授業形態	実習			対象学生	2年生	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	前期	教員実務経験対象	有	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	手術準備(動物・手術器具)、術中・術後管理、麻酔準備や麻酔管理や麻酔監視、手術の補助、救急救命など動物外科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。							
授業の一般目標	修得した知識の実践力を身に付ける							
受講条件	動物外科看護学実習Ⅰの単位認定							
事前学習について (テキスト・参考書等)	緑書房出版「動物看護の教科書(新訂版)第6巻」、インターズー出版「動物看護実習テキスト第2版」							
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	1. 手術準備や術中・術後管理等の各種技法や手順を説明できる。 2. 救急救命の各種技法や手順を説明できる。							
□ 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
□ 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
□ 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
□ 技能・表現の観点	手術準備や術中・術後管理等の各種技法を適宜実施できる。 2. 救急救命の各種技法を適宜実施できる。							
授業計画(全体)								
動物外科看護学の理論を基に手術における実践及び術後管理や救命救急を学ぶ								
授業計画(授業単位)								
回	主 題			授 業 内 容			備 考	
第1～2回	救急救命処置Ⅱ①			救命方法の知識の実践①			2年次に行われる 救急救命セミナーにて	
第3～4回	救急救命処置Ⅱ②			救命方法の知識の実践②				
第5～6回	手術準備			手術台への動物の固定や器械台のい準備、術野の消毒ができる				
第7～8回	麻酔器・各種モニター装着			麻酔器の接続やモニター機器を動物に接続することができる				
第9～10回	術中補助			直接補助(手術助手・器械の受け渡しなど)ができる 関節補助(無影灯や手術台の操作など)ができる				
第11～12回	歯科処置準備・補助			歯科器具の取り扱い方を理解し、歯科処置(歯石除去など)の補助ができる				
第13～14回	衛生管理			術後の創傷管理(ネット・カラー装着なども含む)ができる				
第15～16回	手術見学：事前学習《グループワーク》			手術見学において、必要なことを考え準備ができる				
第17～18回	手術見学：事後学習			前回行った手術について振り返りを行う				
第19～20回	人と動物の関係および行動学			アニマルマッサージを始めるにあたっての基礎知識				
第21～22回	犬の解剖学および生理学			骨格、筋肉/筋肉の停止部と起始部について				
第23～24回	リラクゼーションマッサージテクニック			マッサージテクニックの種類、実践				
第25～26回	メンテナンスマッサージテクニック			マッサージテクニックの種類、実践				
第27～28回	実習／フィールドワーク							
第29～30回	授業振り返り/単位認定試験/テスト返し/解説			授業振り返り/授業内にて前期末試験/試験の問題の意義/復習する			※学生証が必要	
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○	○	○		50	秀 (S):100点～90点
小テスト							-	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート	○		○				10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	◎			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習			○	○			20	
出席			○				10	
担当教員	北村 昌樹			実務経験紹介	https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/			

科目名	動物臨床看護学実習Ⅰ			単位数	1	科目コード	ND2010		
授業形態	実習			対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	必修			開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	動物看護過程や疾患別の看護など、動物臨床看護学で学んだ知識の実践力を取得する。								
授業の一般目標	修得した知識の実践力を身に付ける								
受講条件	動物臨床看護学総論の単位認定								
事前学習について (テキスト・参考書等)	緑書房出版「動物看護の教科書(新訂版) 第5巻」、インターズー出版「動物看護実習テキスト第2版」								
授業の到達目標									
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 入院動物の管理について説明できる。 2. 院内における衛生管理の重要性を説明できる。 3. 栄養チューブの管理ができる。 4. 褥瘡について説明できる。								
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。 2. ペインスケールを用いて入院動物の痛みの程度を評価できる。								
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。								
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。								
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	1. ケージの清掃、管理ができる。 2. 体位変換を行うことができる。 3. 栄養チューブの設置準備を行うことができる。								
授業計画(全体)									
動物看護過程の実践(事例演習)から実践力を身に付けるように授業を進める									
授業計画(授業単位)									
回	主 題			授 業 内 容			備考		
第1回	ケージの清掃・管理			衛生管理について					
第2回	入院動物へのアセスメント			入院動物看護の流れ、退院手続き					
第3回	褥瘡を持つ動物への看護			褥瘡を持つ動物への看護を考える。(体位変換や褥瘡保護など)					
第4回	給餌について			ペットフードについて					
第5回	給餌について			栄養チューブ設置の準備や流動食の調整について					
第6回	ペインスケールを用いた痛みの判定			ペインスケールを用いて、入院動物(動画)の痛みの程度を測定する					
第7回	授業振り返り／単位認定試験			授業を振り返り、授業内にて学期末試験を受ける					
第8回	テスト返し／解説			前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する					
成績評価方法									
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。									
		知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験		◎	◎	○				50	秀 (S):100点～90点
小テスト						○		10	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート		○	○					10	良 (B):79点～70点
授業態度				○	◎			20	可 (D):69点～60点
発表・作品								-	不可(E):59点以下
演習								-	
出席				○				10	
担当教員					実務経験紹介				

科目名	動物臨床看護学実習Ⅱ			単位数	1	科目コード	ND2011	
授業形態	実習			対象学生	2年生	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	後期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	動物看護過程や疾患別の看護など、動物臨床看護学で学んだ知識の実践力を修得する。							
授業の一般目標	修得した知識の実践力を身に付ける							
受講条件	動物臨床看護学実習Ⅰの単位認定							
事前学習について (テキスト・参考書等)	緑書房出版「動物看護の教科書(新訂版)第5巻」、インターズー出版「動物看護実習テキスト第2版」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 各事例において必要な情報を収集できる。 2. 各事例に合わせた動物看護計画を計画できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	グループで話し合った動物看護計画を、論理的に説明できる。							
授業計画(全体)								
動物看護過程の実践(事例演習)から実践力を身に付けるように授業を進める								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容				備 考	
第1回	動物看護過程の展開①《肛門周囲腺腫の看護》		《グループワーク》 看護対象のアセスメントから動物看護計画を立案する					
《グループワーク 発表》 グループで話し合った動物看護計画を発表する								
《グループワーク》 事例をもとに、動物看護記録を作成する								
第2回	動物看護過程の展開①《骨折の看護》		《グループワーク》 看護対象のアセスメントから動物看護計画を立案する					
《グループワーク 発表》 グループで話し合った動物看護計画を発表する								
《グループワーク》 事例をもとに、動物看護記録を作成する								
第3回	動物看護過程の展開①《感染症の看護》		《グループワーク》 看護対象のアセスメントから動物看護計画を立案する					
《グループワーク 発表》 グループで話し合った動物看護計画を発表する								
《グループワーク》 事例をもとに、動物看護記録を作成する								
第4回	動物看護過程の展開①《褥瘡の看護》		《グループワーク》 看護対象のアセスメントから動物看護計画を立案する					
《グループワーク 発表》 グループで話し合った動物看護計画を発表する								
《グループワーク》 事例をもとに、動物看護記録を作成する								
第5回	動物看護過程の展開①《がんの看護》		《グループワーク》 看護対象のアセスメントから動物看護計画を立案する				第13～15回を通しての 動物看護計画の立案・発表 を期末試験とする。	
《グループワーク 発表》 グループで話し合った動物看護計画を発表する								
《グループワーク》 事例をもとに、動物看護記録を作成する								
第6回	期末試験 動物看護過程の展開⑤《がんの看護》		《グループワーク》 看護対象のアセスメントから動物看護計画を立案する					
《グループワーク 発表》 グループで話し合った動物看護計画を発表する								
《グループワーク》 事例をもとに、動物看護記録を作成する								
第7回	成績評価方法							
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○	○	○		50	秀 (S):100点～90点
小テスト							-	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート	○		○				10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	◎			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習			○	○			20	
出席			○				10	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	動物看護総合実習Ⅰ		単位数	1	科目コード	ND2012		
授業形態	体験型実習		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	動物病院の概要を理解する。 動物病院内での動物看護師の実際の業務や獣医師・動物看護師との連携を理解する。 学内でのカリキュラム、各教科と実際の業務との関連を知ること、必要性や目的を理解し意欲の向上を図る。							
授業の一般目標	・オリエンテーションを受け、動物病院の概要、動物看護師の職務内容を理解する。 ・獣医師・看護師の業務内容を把握する。 ・動物病院の施設見学をし、施設の概況や機能を理解する。 ・動物病院の衛生管理・環境整備の必要性を理解する。 ・学習者として適切に行動できるように社会常識やマナーを実践する。 ・学内でのカリキュラムや各教科と実際の業務との関連を知り、必要性を理解する。							
受講条件	動物看護科に在籍している。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	特になし							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	各種検査の種類や方法、意義を理解した上で、正常値や異常値を判断できる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場における各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
学内での事前・事後学習および動物病院内での実習授業。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容			備考			
第1回	事前学習	オリエンテーション：実習の目的・目標を知る。各種書類配布および記入						
第2回	動物病院実習①	各自で選んだ動物病院へ実習						
第3回								
第4回								
第5回								
第6回	動物病院実習②	各自で選んだ動物病院へ実習						
第7回								
第8回								
第9回								
第10回	動物病院実習③	各自で選んだ動物病院へ実習						
第11回								
第12回								
第13回								
第14回	事後学習	自己評価、ポートフォリオ（実習記録、課題）の記入および発表						
第15回								
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							-	秀 (S):100点～90点
小テスト							-	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート	○		○				10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	◎			50	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				40	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	動物看護総合実習Ⅱ			単位数	1	科目コード	ND2013	
授業形態	補助型実習			対象学生	2年生	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	前期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	学校で修得した知識や技術が動物看護業務を実践する上で必須であることを理解する。 飼い主対応や処置室等での臨床症例を見学し、可能な範囲で体験学習する中で、円滑な人間関係を築くうえで必要な技術や能力を修得する。							
授業の一般目標	・可能な範囲において行われる実習項目において、動物看護師としての業務、役割を果たす。 ・チーム動物医療は獣医師・動物看護師、スタッフ全員が協力して行うチーム医療であることを理解し、良好なコミュニケーションをとる。 ・動物愛護の精神、言葉遣い、プライバシーの尊重など基本的な事項について認識を深める。							
受講条件	動物看護総合実習Ⅰの単位認定							
事前学習について (テキスト・参考書等)	特になし							
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	各種検査の種類や方法、意義を理解した上で、正常値や異常値を判断できる							
□ 思考・判断の観点	臨床現場における各種場面において、最良とされる判断ができる。							
□ 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
□ 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
□ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
学内での事前・事後学習および動物病院内での実習授業。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題			授 業 内 容			備考	
第1回	事前学習			オリエンテーション：実習の目的・目標を知る。各種書類配布および記入				
第2回	動物病院実習①			京都市獣医師会会員病院での実習				
第3回								
第4回								
第5回								
第6回								
第7回								
第8回	前半の事後学習と後半へ向けての事前学習			各自で反省点を見出し、後半実習へ向けて仕切りなおす				
第9回	動物病院実習②			京都市獣医師会会員病院での実習				
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回	事後学習			自己評価、ポートフォリオ（実習記録、課題）の記入および発表				
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80％以上 成績点70％、提出物&授業態度点20％、出席点10％を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							-	秀 (S):100点～90点
小テスト							-	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート	○		○				10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	◎			50	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				40	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	動物看護総合実習Ⅲ			単位数	1	科目コード	ND2014	
授業形態	実務型実習			対象学生	2年生	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	前期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	総合的な動物看護の実務能力を修得するための指導を受け、動物看護師実務能力を修得する。 動物看護師としての役割や責任についての認識を深める。							
授業の一般目標	・指導者の助言を受けながら動物病院における獣医師との連携を通じ看護計画の展開を修得し、動物看護を遂行できる能力を養う。 ・可能な限り多くの項目について技術を体験学習する。 ・動物病院内における、動物看護師の役割やチーム動物医療の機能、行動について考えることができる。							
受講条件	動物看護総合実習Ⅱの単位認定							
事前学習について (テキスト・参考書等)	特になし							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	各種検査の種類や方法、意義を理解した上で、正常値や異常値を判断できる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場における各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
学内での事前・事後学習および動物病院内での実習授業。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容				備考	
第1回	事前学習		オリエンテーション：実習の目的・目標を知る 各種書類配布および記入					
第2回	動物病院実習		(就職先を見据えた) 動物病院実習				動物病院へ就職しない学生も 本実習は必須	
第3回								
第4回								
第5回								
第6回								
第7回								
第8回								
第9回								
第10回								
第11回	事後学習		自己評価、ポートフォリオ（実習記録、課題）の記入および発表					
第12回	高度動物医療研修		山口大学動物医療センター研修				2021年8月実施予定	
第13回								
第14回								
第15回								
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点～90点
小テスト							-	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎	○				10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	◎			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習	○		◎				20	
出席			○				10	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	キャリアデザインⅠ			単位数	1	科目コード	NE2001	
授業形態	講義			対象学生	1年生	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	前期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	個人ワーク・グループワークを行い、就職活動において、実践で活用できる内容を身につけることができる。							
授業の一般目標	一人ひとりが自分のキャリアの方向性を主体的に定めることができる。							
受講条件	動物看護科に在籍している。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	就職NAVIノート・未来ノート							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点								
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	授業で取り上げた内容において、自分の意見を論理的に述べることができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	相手の気持ちを考えて、誠実な態度で人の話を聞くことができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	グループワークや発表において、自身の考えを相手に伝えることができる。							
授業計画(全体)								
専門学校は社会に出る前の最終学校という認識を持ち、学校生活2年間を社会人になるための準備期間として捉えることができる。 また、人との関わり方や就職についてなどを個人ワークやグループワークでいろんな意見を受け入れ、自身のキャリア延いては人生について考えることができるように授業を進めていく。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題			授 業 内 容			備考	
第1回	社会人になるために			学校が社会の縮図であることを知り、今後の学校生活を社会人として行動できる				
第2回	主体性とは			主体性とは何かを知り、課外活動の目的を考える				
第3回	あいさつとは			社会人としてのあいさつ・返事を学ぶ				
第4回	報告・連絡・相談の重要性			社会人に必要な報告・連絡・相談について学ぶ				
第5回	報告・連絡・相談の仕方			報告・連絡・相談の使い分けや使うタイミングを学ぶ				
第6回	ポジティブシンキング			ポジティブな考え方とは				
第7回	コミュニケーション能力とは 動物病院理解型実習に向けて			コミュニケーションには自己理解と他者理解が必要であることを知る 動物病院理解型実習の実習先を考え始める				
第8回	自己理解と他者理解			自身と他人は違うということ再認識する				
第9回	企業研究Ⅰ(見学先調査)/面談			夏休みに行う「動物病院理解型実習」の実習先をリストアップする				
第10回	思いやりとは(動物看護師と思いやりの関係)			“思いやり”とは何かを考える				
第11回	2020年9月 動物病院 理解型実 習 に向けて	電話のかけ方／尊敬語と謙譲		電話でのアポイントメントの取り方を学ぶ。／敬語を再確認する				
第12回		履歴書・お礼状の書き方①		履歴書・お礼状の書き方を学び、実際に書いてみる				
第13回		履歴書・お礼状の書き方②		履歴書・お礼状の書き方を学び、実際に書いてみる				
第14回		動物病院体験型実習について(諸注意・所作)		動物病院体験型実習に向けての諸注意や所作を学ぶ				
第15回	動物病院理解型実習 振り返り			動物病院体験型実習を終え、感想等発表				
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							-	秀 (S):100点～90点
小テスト							-	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート		○	○				20	良 (B):79点～70点
授業態度			○	○			30	可 (D):69点～60点
発表・作品				○	○		20	不可(E):59点以下
演習				○	○		20	
出席			○				10	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	キャリアデザインⅡ			単位数	1	科目コード	NE2002	
授業形態	講義			対象学生	1年生	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	後期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	個人ワーク・グループワークを行い、就職活動において、実践で活用できる内容を身につけることができる。							
授業の一般目標	一人ひとりが自分のキャリアの方向性を主体的に定めることができる。							
受講条件	キャリアデザインⅠの単位認定							
事前学習について (テキスト・参考書等)	就職NAVIノート・未来ノート							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点								
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	授業で取り上げた内容において、自分の意見を論理的に述べることができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	相手の気持ちを考えて、誠実な態度で人の話を聞くことができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	グループワークや発表において、自身の考えを相手に伝えることができる。							
授業計画(全体)								
専門学校は社会に出る前の最終学校という認識を持ち、学校生活2年間を社会人になるための準備期間として捉えることができる。 また、人との関わり方や就職についてなどを個人ワークやグループワークでいろんな意見を受け入れ、自身のキャリア延いては人生について考えることができるように授業を進めていく。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容				備考	
第1回	動物病院理解型実習 振り返り 計画立案 (目標を達成するために)		動物病院体験型実習を終え、感想等発表 PDCAサイクルを知り、自身の目標と目標達成計画を立てることができる					
第2回	自己理解Ⅰ『チーム学習を進めるために』		コミュニケーション能力を高めるには 「チームワーク」の大切さとうまく「コミュニケーション」を取る秘訣について学ぶ					
第3回	自己理解Ⅱ		職務適正テスト					
第4回	自己理解Ⅲ『過去を振り返ろう』		過去のライフイベントを通して、自分の人生に対する態度の根っこにあるものに気づき、自分らしさについて考える					
第5回	自己理解Ⅳ		第3回にて行った職務適正テストのフィードバック 自身を他者に伝えることを意識し、自己イメージを言語化・明確化する					
第6回	自己理解Ⅴ『ジョハリの窓』		「自分から見た自分」と「他人から見た自分」についての気づきを得て、自己理解とより良い人間関係について考える					
第7回	自己理解Ⅵ 『私の大切なもの探し・ネガポジまっぷ』		自分の価値観、また自分自身を「他者に伝える」ことを意識して、「自己イメージ」を言語化・明確化できるようにする					
第8回	自己理解Ⅶ『なぜ働くの?』		自分にとっての「働く理由」や思いについて洞察を深める					
第9回	求人票の見方 企業研究Ⅰ (理想の職場とは)		基本給・諸手当・保険など求人票に書かれている基本的な部分を学ぶ 自身に合った職場を考える					
第10回	企業研究Ⅰ(説明会希望調査)/面談		学内合同企業説明会希望調査 希望する動物病院のリストアップをする					
第11回	電話のかけ方／尊敬語と謙譲語 履歴書・お礼状の書き方		電話でのアポイントメントの取り方を学ぶ。／敬語を再確認する 履歴書・お礼状の書き方を学び、実際に書いてみる					
第12回	動物病院訪問、学内合同企業説明会について (諸注意・所作)		動物病院訪問、学内合同企業説明会に向けての諸注意や所作を学ぶ					
第13回	動物病院訪問、学内合同企業説明会							
第14回								
第15回	動物病院訪問、学内合同企業説明会 振り返り		動物病院訪問、学内合同企業説明会を終え、感想等発表					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							-	秀 (S):100点～90点
小テスト							-	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート		○	○				20	良 (B):79点～70点
授業態度			○	○			30	可 (D):69点～60点
発表・作品				○	○		20	不可(E):59点以下
演習				○	○		20	
出席			○				10	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	キャリアデザインⅢ		単位数	1	科目コード	NE2003		
授業形態	講義		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的・目標とする資格・検定等)	就職活動において実践的に活用できる内容を学ぶことができる。							
授業の一般目標	個人ワーク・チームワークを通して自分への洞察を深め、仕事全般についての理解を高めて、仕事選択ができるようになる。							
受講条件	キャリアデザインⅢの単位認定							
事前学習について (テキスト・参考書等)	就職NAVIノート・未来ノート							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点								
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	授業で取り上げた内容において、自分の意見を論理的に述べることができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	相手の気持ちを考えて、誠実な態度で人の話を聞くことができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	グループワークや発表において、自身の考えを相手に伝えることができる。							
授業計画(全体)								
キャリアデザインⅡで学んだ内容を踏まえ、自己分析や企業研究など、2年生から始まる就職活動を見据えた内容を進めていく。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容			備考			
第1回	働くとは／就職活動の流れ	学生と社会人の違いを再認識する 「未来ノート」での学習の振り返り						
第2回	仕事理解Ⅰ『チラシ作り』①	「チラシ作り」を通して、仕事はどのようにすると時間内で成果を出すことができるのか、その能力や姿勢について理解させる						
第3回	仕事理解Ⅱ『チラシ作り』②	「チラシ作り」を通して仕事の進め方、自分自身のコミュニケーション特性を学び、コミュニケーションの取り方を体得する						
第4回	仕事理解Ⅲ『ケーススタディで学ぶ実際の仕	社会・組織の一員として、どのように行動すれば良いのかや、組織の中での自分の役割について考えられる						
第5回	仕事理解Ⅳ『未来ページ』	「自己理解」と「仕事理解」の気づきから自分のキャリア目標を設定させる。それを実現するためのキャリア・プランニングができ、具体的な「学習目標」を明確にさせる						
第6回	就活メイクを学ぶ	ビューティ専門学校の先生や学生から、メイクのポイントを学ぶ						
第7回	生活設計・家計管理	「SMBCコンシューマーファイナンス」特別授業 計画的な貯蓄・給与明細書の見方・お金のトラブル・資産運用などについて学ぶ						
第8回	動物看護総合実習に向けて（企業研究①）	動物看護総合実習の事前学習（企業研究①）						
第9回	動物病院体験型実習について（所作・諸注意	動物病院体験型実習に向けての所作や諸注意を学ぶ						
第10回	動物病院体験型実習 振り返り	動物病院体験型実習を終え、感想等発表						
第11回	企業研究②	自身に合った職場を見つける②						
第12回	企業研究③	自身に合った職場を見つける③						
第13回	動物病院実務型実習について（動物病院研究）	動物病院実務型実習に向けての実習先の動物病院を調べる						
第14回	動物病院実務型実習について（所作・諸注意	動物病院実務型実習に向けての所作・諸注意を学ぶ						
第15回	動物病院体験型実習 振り返り	動物病院体験型実習を終え、感想等発表						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							-	秀（S）:100点～90点
小テスト							-	優（A）:89点～80点
宿題授業外レポート		○	○				20	良（B）:79点～70点
授業態度			○	○			30	可（D）:69点～60点
発表・作品				○	○		20	不可（E）:59点以下
演習				○	○		20	
出席			○				10	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	ボランティア活動Ⅰ			単位数	1	科目コード	NE2004	
授業形態	講義			対象学生	1年生	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	後期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	京都動物愛護センターが実施している子猫の「一時預りボランティア」に授業として参画し、今まで学んできた動物看護の知識を用いて、その子猫のために何ができるかを考え、実践することで社会貢献に寄与する。							
授業の一般目標	京都動物愛護センターが実施している子猫の「一時預りボランティア」に授業として参画し、今まで学んできた動物看護の知識を用いて、その子猫のために何ができるかを考え、実践することで社会貢献に寄与する。							
受講条件	動物看護科に在籍している。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	適宜資料配布							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点								
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 今まで勉強してきた動物看護技術を用いてボランティア活動に参加できる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
京都動物愛護センターの子猫の一時預りボランティアに参画し動物看護の知識が社会貢献を出来ることを考えるように授業を進める								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容				備考	
第1回	授業概論 主体性とは？		この授業の意義・流れを理解し、今後の授業に臨むことができるようになる。 「主体性」と「自主性」の違いを自分の言葉で説明できる					
第2回	動物関係の社会貢献		動物看護の知識を使ってできる社会貢献にどんなものがあるかを知る					
第3回	自分たちでできること		自分たちで、動物看護の知識を使ってできる社会貢献を考える					
第4回	京都動物愛護センター見学		京都動物愛護センター見学をしてボランティア活動とは何かを知る					
第5回								
第6回	グループワーク：マニュアル作成①		子猫の一時預りボランティアに参画する際に必要なマニュアルを考える					
第7回	グループワーク：マニュアル作成②							
第8回	グループワーク：マニュアル作成③							
第9回	グループワーク：マニュアル作成④							
第10回	グループワーク：マニュアル作成⑤							
第11回	グループワーク：活動前最終確認		子猫の一時預りボランティア開始前に決まったことの最終確認・全体共有					
第12回	グループワーク：活動中間報告①		子猫の一時預りボランティア開始 1 週間目の情報共有・今後の問題点を話し合う					
第13回	グループワーク：活動中間報告②		子猫の一時預りボランティア開始 2 週間目の情報共有・今後の問題点を話し合う					
第14回	グループワーク：活動中間報告③		子猫の一時預りボランティア開始 3 週間目の情報共有・今後の問題点を話し合う					
第15回	この授業を受けて		クラス全体で授業で学んだことを共有					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							-	秀 (S):100点～90点
小テスト							-	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎	○				20	良 (B):79点～70点
授業態度		◎	○	◎			70	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			○				10	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	ボランティア活動Ⅱ			単位数	1	科目コード	NE2005	
授業形態	講義			対象学生	2年生	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	前期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	京都動物愛護センターが実施している子猫の「一時預りボランティア」に授業として参画し、今まで学んできた動物看護の知識を用いて、その子猫のために何ができるかを考え、実践することで社会貢献に寄与する。							
授業の一般目標	京都動物愛護センターが実施している子猫の「一時預りボランティア」に授業として参画し、今まで学んできた動物看護の知識を用いて、その子猫のために何ができるかを考え、実践することで社会貢献に寄与する。							
受講条件	ボランティア活動Ⅰの単位認定							
事前学習について (テキスト・参考書等)	適宜資料配布							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点								
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	今まで勉強してきた動物看護技術を用いてボランティア活動に参加できる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
京都動物愛護センターの子猫の一時預りボランティアに参画し、縦割りの取組みを通じてボランティア意義を伝えられるような事を学ぶ								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容				備 考	
第1回	授業概論 主体性とは？		この授業の意義・流れを理解し、今後の授業に臨むことができるようになる。 「主体性」と「自主性」の違いを自分の言葉で説明できる					
第2回	動物関係の社会貢献		動物看護の知識を使ってできる社会貢献にどんなものがあるかを知る					
第3回	自分たちでできること		自分たちで、動物看護の知識を使ってできる社会貢献を考える					
第4回	京都動物愛護センター見学		京都動物愛護センター見学をしてボランティア活動とは何かを知る					
第5回								
第6回	グループワーク：マニュアル作成①		子猫の一時預りボランティアに参画する際に必要なマニュアルを考える					
第7回	グループワーク：マニュアル作成②							
第8回	グループワーク：マニュアル作成③							
第9回	グループワーク：マニュアル作成④							
第10回	グループワーク：マニュアル作成⑤							
第11回	グループワーク：活動前最終確認		子猫の一時預りボランティア開始前に決まったことの最終確認・全体共有					
第12回	グループワーク：活動中間報告①		子猫の一時預りボランティア開始 1 週間目の情報共有・今後の問題点を話し合う					
第13回	グループワーク：活動中間報告②		子猫の一時預りボランティア開始 2 週間目の情報共有・今後の問題点を話し合う					
第14回	グループワーク：活動中間報告③		子猫の一時預りボランティア開始 3 週間目の情報共有・今後の問題点を話し合う					
第15回	この授業を受けて		クラス全体で授業で学んだことを共有					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点～90点
小テスト	○	○	◎				20	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎	○				10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	◎			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			○				10	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	損害保険学			単位数	1	科目コード	NF2001	
授業形態	講義			対象学生	1年生	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	前期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	ペット保険及び損害保険募集人に関連する内容を覚える。 アニコム損害保険の合格レベル、知識を覚える。							
授業の一般目標	アニコム損害保険に合格する。							
受講条件	動物看護科に在籍している。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	適宜テキストを配布							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	動物の医療保険について説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
ペット保険及び損害保険募集人資格を集中講座で学ぶ。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題			授 業 内 容			備考	
第1回	ペット保険講座			ペット保険」を扱うペットショップで働く際、あるいはペット保険加入者が多数来院する動物病院で働く際に役立つ「ペット保険（アニコム損保等）」の知識全般について学習します				
第2回								
第3回								
第4回								
第5回	損害保険募集人 一般試験対策講座			損害保険会社のペット保険を扱うペットショップ、動物病院等への就職に有利な資格で、「損害保険募集人試験」の合格を目指す				
第6回								
第7回								
第8回								
成績評価方法								
各項目では、理解力テストを行う。 単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 理解力テスト点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					80	秀 (S):100点～90点
小テスト							-	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート							-	良 (B):79点～70点
授業態度							-	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			○	○			20	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	基本IT技術Ⅰ			単位数	1	科目コード	NF2002	
授業形態	実習			対象学生	2年生	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	前期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	パワーポイントを使用したスライド作成							
授業の一般目標	パワーポイントを使用して発表スライドを制作できるようになる。							
受講条件	動物看護科に在籍している。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	「Microsoft Word2013 クイックマスター 基本編」「Microsoft Excel2013 クイックマスター 基本編」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	求められている資料をWord、Excelで作成出来る。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	授業で取り上げた内容において、自分の意見を論理的に述べることができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
Word、Excelを使いこなせるようにし、文書の作成・表の作成編集関数を理解し出来るように授業を進める								
授業計画(授業単位)								
回	主 題			授 業 内 容			備考	
第1回	コンピュータの基本操作			ログイン、メールアドレス登録、課題提出の仕方				
第2回	文書の作成			ワードの基本操作、文章作成、編集、文字修飾				
第3回	文書の作成			インデントやタブ、ビジネス文書について				
第4回	表の作成			表を挿入し、編集する				
第5回	表の編集			表の体裁を整える				
第6回	表現力アップ			図などの挿入・編集				
第7回	表現力アップ			SmartArtグラフィックなどの挿入・編集				
第8回	エクセルの基礎			エクセルの基本操作と簡単な表の作成				
第9回	エクセルの基本			表の作成、演算子や数式について				
第10回	数式の利用			関数の理解、オートSUMボタンを利用した関数の利用				
第11回	関数の利用			絶対参照と相対参照、関数の挿入ボタンを利用した関数について				
第12回	グラフ			グラフの作成・編集				
第13回	試験範囲の復習			試験対策のポイント、復習				
第14回	前期振り返り／期末テスト			前期を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける				
第15回	テスト返し／解説			前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する				
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点～90点
小テスト	○	○	◎				20	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎	○				10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	◎			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可 (E):59点以下
演習							-	
出席			○				10	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	基本IT技術Ⅱ			単位数	2	科目コード	NF2003	
授業形態	実習			対象学生	2年生	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	後期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	コンピュータを利用した事務作業やビジネスに必要な文書の作成や表計算について学習。 必要な技術を効率良く行えるよう繰り返し練習する。							
授業の一般目標	必要に応じたコンピュータの利用技術の取得。							
受講条件	基本IT技術Ⅰの単位認定							
事前学習について (テキスト・参考書等)	「Microsoft Power Point2013 クイックマスター」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 効果的なスライド作成が出来るようになる。 2. 自身の考えや企画を形にする為に、効果的なスライド作成が出来るようになる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	授業で取り上げた内容において、自分の意見を論理的に述べることができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
PowerPointを使いこなせるようにし、プレゼンのスライド作成ができプレゼンテーションが出来るように授業を進める								
授業計画(授業単位)								
回	主 題			授 業 内 容			備考	
第1回	基本操作 1			PowerPointソフトはどのようなものか 基本操作とソフトの理解				
第2回	基本操作 2			スライドの作成・デザイン・文字入力と構成				
第3回	基本操作 3			図形や絵の挿入・アニメーション効果・画面の切り替え				
第4回	基本操作 4			表・グラフの挿入				
第5回	基本操作 5			音の挿入と効果的な画像挿入				
第6回	基本操作の振り返り			これまでの基本操作で簡単なスライドを作製する				
第7回	プレゼンのスライド制作 1			序論・本論・結論の構成を踏まえ、簡単なスライドを制作出来るようになる。				
第8回	プレゼンのスライド制作 2			序論・本論・結論の構成を踏まえ、簡単なスライドを制作出来るようになる。 参考・引用文献の表記方法				
第9回	発表用スライド作成 1			発表計画を立て、基本操作を取り入れたスライド作りを行う				
第10回	発表用スライド作成 2			発表計画を立て、基本操作を取り入れたスライド作りを行う				
第11回	発表用スライド作成 3			発表計画を立て、基本操作を取り入れたスライド作りを行う				
第12回	発表用スライド作成 4			発表計画を立て、基本操作を取り入れたスライド作りを行う				
第13回	発表用スライド作成 5			発表計画を立て、基本操作を取り入れたスライド作りを行う				
第14回	プレゼン発表 1			模擬発表 内容が明確で分かりやすく構成されているかを自己判断出来るようになる				
第15回	プレゼン発表 2			模擬発表 内容が明確で分かりやすく構成されているかを自己判断出来るようになる				
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点～90点
小テスト	○	○	◎				20	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎	○				10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	◎			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			○				10	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	イベントプロジェクト			単位数	1	科目コード	NG2001		
授業形態	講義/実習			対象学生	1年生	開設期	通期		
区分	必修			開設時期	前期/後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	具体的なイベント活動の企画・運営を通して企画力・実行力・協調性など社会人基礎力をつける。 イベントを企画する段階から時間軸のプロセスを経て、「最終的な目的達成」のために最高のパフォーマンスを発揮できるよう、イベントのノウハウや、プランニング方法等を実際のイベント運営を通して、具体的に学び、これからのイベントの方向性を探っていく。								
授業の一般目標	イベントの企画から実際にイベント運営を体験し、制作ノウハウを身につける。 自分達の考えたイベントが来場者にどう評価されたかを調査・分析し、グループワークで各自が役割に対する責務を果たし、チーム全体の力を発揮することができる。								
受講条件	動物看護科に在籍している。								
事前学習について (テキスト・参考書等)	適宜テキストを配布								
授業の到達目標									
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点									
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点									
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。								
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。								
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点									
授業計画(全体)									
動物看護に関わるイベントの企画運営を学ぶ。									
授業計画(授業単位)									
回	主 題			授 業 内 容				備 考	
第1回	イベントとは?			2020年度のイベントについて/イベントの意義について					
第2回	イベント①			しが動物フェスティバルの企画運営				2020年7月実施予定	
第3回									
第4回	イベント②			ほりかわ祭(学園祭)の企画運営				2020年10月実施予定	
第5回									
第6回	イベント③			京都動物フォーラムの企画運営				2021年3月実施予定	
第7回									
成績評価方法									
単位認定 60点以上 各イベントの参加状況・運営・実施状況にて総合判断									
		知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験									秀 (S):100点~90点
小テスト									優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート				○	○			40	良 (B):79点~70点
授業態度				◎	◎			50	可 (D):69点~60点
発表・作品								-	不可(E):59点以下
演習								-	
出席				◎	◎			10	
担当教員					実務経験紹介				

科目名	社会常識		単位数	1	科目コード	NG2002		
授業形態	講義		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	社会常識について学ぶ。日々の対人関係を円滑にするための基本的スキルの習得。文書読解・作成能力検定3級合格のために必要な知識の習得。							
授業の一般目標	文章を正確に読み取り、自分の考えや意見を的確に文章で表現する能力 文章でのコミュニケーション力や論理的思考力、ひいては一般的な「コミュニケーション力」を高める							
受講条件	動物看護科に在籍している。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	文書検公式テキスト、基礎から学べる！文書カステップ							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	社会常識を知る。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	日常生活における各種場面において、最良とされる文章作成ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
コミュニケーションの重要性を理解し社会人としてのマナーを身に付け、文書読解・作成能力検定3級取得を目指して授業を進める								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容				備考	
第1回	コミュニケーションの重要性①		バーバルコミュニケーションとノンバーバルコミュニケーション、表情について					
第2回	コミュニケーションの重要性②		挨拶と返事、お辞儀の基本、第一印象と第二印象について					
第3回	社会人としての話し方・聞き方①		ビジネスにふさわしい話し方、分かりやすい話し方のポイントについて					
第4回	社会人としての話し方・聞き方②		印象を左右することば遣い、選ぶ言葉で次につながるについて					
第5回	文章作成の基本		文の基本型、テーマの立て方、展開、句読点のルール、段落わけのルール等について					
第6回	文章作成の応用		文の長さや読みやすさ、漢字・ひらがな・カタカナの使い分け等について学ぶ。					
第7回	文章の種類と表現①		文書読解・作成能力検定3級対策①					
第8回	文章の種類と表現②		文書読解・作成能力検定3級対策②					
第9回	文章の種類と表現③		文書読解・作成能力検定3級対策③					
第10回	文章の種類と表現④		文書読解・作成能力検定3級対策④					
第11回	文章の種類と表現⑤		文書読解・作成能力検定3級対策⑤					
第12回	文章の種類と表現⑥		文書読解・作成能力検定3級対策⑥					
第13回	文章の種類と表現⑦		文書読解・作成能力検定3級対策⑦					
第14回	前期振り返り／期末テスト		前期を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける					
第15回	テスト返し／解説		前回は行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 試験取得点数70% 提出物&授業態度20% 出席点10%を換算し、総合評価とする。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点～90点
小テスト	○	○	◎				20	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎	○				10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	◎			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			○				10	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	ビジネス文章力Ⅰ		単位数	1	科目コード	NG2003		
授業形態	講義と実習		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)			硬筆検定4級取得を目指した授業。文字を書くという私たちの日常生活での最も基本的な教養を身につける。					
授業の一般目標			硬筆書写検定4級合格のための学び					
受講条件			動物看護科に在籍している。					
事前学習について (テキスト・参考書等)			硬筆書写技能検定4級合格のポイント					
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点			1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる					
□ 思考・判断の観点			授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる					
□ 関心・意欲の観点			自ら疑問点を見出し、追究することができる。					
□ 態度の観点			日常生活の中で書写について主体的に考えることができる					
□ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
硬筆書写技能検定4級取得のために必要な学びを行う								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容				備考	
第1回	オリエンテーション		美しい文字を書く基本を学ぶ。用具、テキスト、ドリルの活用方法、学習計画が理解できる					
第2回	速書き		一定の時間内に、一定の文章を書き終える事ができる					
第3回	漢字と平仮名を大きく書く		5～6字くらいの語句を、2.5センチのますめに1字ずつ書くことができる					
第4回	縦書き(漢字と仮名交じり文)		ボールペン・サインペンで40字ほどの感じ仮名交じり文を、行の幅1.7センチの縦けいのあるところに楷書で書くことができる					
第5回	横書き(漢字仮名交じり文)		片仮名、数字、ローマ字が混ざっている55字ぐらいの文を、横書きで書くことが出来る					
第6回	簡単な掲示を書く		10字ぐらいの短い文を、わくの中に適当な位置に大きさ・太さに留意しながら書くことができる					
第7回	教育漢字と仮名の筆順		多く用いられる平易な漢字の点画、筆順を正しく字形を整えて書くことが出来る					
第8回	過去問題実施 模擬試験の実施①		硬筆書写検定4級受験を想定し模試を実施					
第9回	過去問題実施 模擬試験の実施②		硬筆書写検定4級受験を想定し模試を実施					
第10回	速書き		一定の時間内に、一定の文章を美しく正しく書き終える事ができる					
第11回	漢字(楷・行)を大きく書く		漢字の楷書と行書の基本を理解し書くことができる					
第12回	縦書き(漢字と仮名交じり文)		ボールペン・サインペンで45字ほどの漢字仮名交じり文を、行の幅1.7センチの縦けいのあるところに行書で書くことができる					
第13回	横書き(漢字仮名交じり文)		片仮名、数字、ローマ字が混ざっている60字ぐらいの文を、感じは楷書で、数字やローマ字は似合うもので横書きで書くことが出来る					
第14回	添え状、履歴書、お礼状の作成①		添え状、履歴書、お礼状を書く上での留意点を学び実際に作成する					
第15回	添え状、履歴書、お礼状の作成①		添え状、履歴書、お礼状を書く上での留意点を学び実際に作成する					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	B(2):70点以上
授業態度			○				10	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	コミュニケーション学			単位数	1	科目コード	NG2004	
授業形態	講義			対象学生	2年生	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	前期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	社会常識について学ぶ。日々の対人関係を円滑にするための基本的スキルの習得。サービス接遇検定合格のために必要な知識の習得。							
授業の一般目標	社会人としての基本的なマナーを身につけ、円滑にコミュニケーションを図れるようになる。 ビジネス電話検定に準じた電話応対ができるようになる。							
受講条件	動物看護科に在籍している。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	サービス接遇検定 受験ガイド3級 改訂版、サービス接遇検定 問題集							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	.社会常識を知る。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	日常生活における各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
コミュニケーションの重要性を理解し社会人としてのマナーを身に付けサービス接遇検定3級取得を目指して授業を進める								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容				備考	
第1回	授業開始について サービス接遇接客とは何か		授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方 サービスの意味、接客とは何かを覚える、効果的な自己紹介の仕方ができる					
第2回	サービススタッフの資質(1)		必要とされる要件 明るさと誠実さ・適切な判断と表現・身だしなみについてを覚える					
第3回	サービススタッフの資質(2)		従業員要件 良識をもつ、適切な判断と表現、清潔感についてを覚える					
第4回	専門知識(1)		サービス知識 サービスの意義・機能・種類を覚える					
第5回	専門知識(2)		従業員知識 商業用語・経済用語を覚える					
第6回	一般知識		社会常識を覚える、時事問題を知る					
第7回	対人技能(1)		一般的な人間関係を築く					
第8回	対人技能(2)		接遇知識、対人心理が理解できる 接遇者としてマナーを心得る					
第9回	対人技能(3)		話し方、接遇用語を覚える 提示・説明の仕方を覚える					
第10回	対人技能(4)		服装 接遇者としての適切な服装を装う					
第11回	実務技能(1)		問題処理。環境整備についてを覚える					
第12回	実務技能(2)		金品管理・社交儀礼の業務ができる					
第13回	試験範囲の復習		試験対策のポイント、復習				試験範囲説明	
第14回	振り返り授業・試験実施		サービス接遇検定合格のポイント、受験				単位認定試験	
第15回	試験問題の解答、解説		試験問題の答え合わせと解説				試験解説	
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 試験取得点数70% 提出物&授業態度20% 出席点10%を換算し、総合評価とする。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点～90点
小テスト	○	○	◎				20	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎	○				10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	◎			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			○				10	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	プレゼンテーション学			単位数	1	科目コード	NG2005	
授業形態	講義			対象学生	2年生	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	後期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	社会人に必要なプレゼンテーション能力。 この授業ではビジネスにおけるプレゼンテーションの考え方や心理学的、実践的なプレゼンテーションテクニックを学び、動物看護師としてその知識・技術を活用できるようになることを目標とする。							
授業の一般目標	・自分の伝えたい内容を伝えられるようにプレゼンテーションが行える。 ・人前に出て、緊張せずにプレゼンテーションが行える。							
受講条件	動物看護科に在籍している。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	テキスト:資料適宜配布 参考書:日本経済新聞出版「プレゼンテーションの技術」(山本 御稔 著)							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点								
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	プレゼンテーションを行う相手や各種場面を分析し、その相手・場面に合わせたプレゼンテーションを行うことができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	自分の伝えたい内容を相手に伝えることができる。 2.チームでプレゼンテーションを行うことができる。							
授業計画(全体)								
プレゼンテーションの目的・重要性を理解し実践的なテクニックを学び自らプレゼンテーションが出来るように授業を進める								
授業計画(授業単位)								
回	主 題			授 業 内 容			備考	
第1回	プレゼンテーションとは			プレゼンテーションの目的・重要性を知る				
第2回	プレゼンテーションの目的設定			自分の話したい内容を客観的に捉え、プレゼンテーションの目的を設定できる				
第3回	自分自身をコントロールするテクニック			人前に出て緊張しなくなるための知識を学ぶ				
第4回	眠くなるプレゼンテーションとは			聴衆が眠くなるプレゼンテーションの共通点を見出す				
第5回	プレゼンテーションのテクニック①			わかりやすいプレゼンテーションの共通点を見出す				
第6回	プレゼンテーションのテクニック②			認知心理学のテクニックを活用できる (アンカリング、返報性、呼びかけ効果、希少性の原理、楽しさの伝達)				
第7回	プレゼンテーションの実践①			プレゼンテーションのテクニック①、②で学んだテクニックを使って実際にプレゼンテーションができる				
第8回	プレゼンテーションのテクニック③			プレゼンテーションを行う相手を知る。自身の「声の魅力」を生かす				
第9回	プレゼンテーションのテクニック④			実践で活用できるテクニックを知る				
第10回	プレゼンテーションの実践②			プレゼンテーションのテクニック③、④で学んだテクニックを使って実際にプレゼンテーションができる				
第11回	チームプレゼンテーション①			チームプレゼンテーションにおける、 チームワーク・役割分担の重要性を知る				
第12回	発表準備①			14、15回目に行うクラス内発表に向けての準備を行う				
第13回	発表準備②			14、15回目に行うクラス内発表に向けての準備を行う				
第14回	発表①			授業内で学んだテクニックを生かし、発表ができる				
第15回	発表②、総括			授業内で学んだテクニックを生かし、発表ができる				
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							-	秀 (S):100点～90点
小テスト							-	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎	○				10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	○			10	可 (D):69点～60点
発表・作品		○	○	○	◎		60	不可(E):59点以下
演習			○	○			10	
出席			○				10	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	フィットネス			単位数	1	科目コード	NG2006	
授業形態	講義			対象学生	1年生	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	後期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	近年、若者の体力・運動能力が低下傾向にある。その結果として肥満や高血圧・高脂血症などの将来の生活習慣病につながるおそれがあり、また運動不足によって豊かな人間性や創造力・主体性といった社会人に必要な能力の低下等、様々な問題があると文部科学省も危惧している。 この授業では基礎体力の向上や今までに経験した事のないニュースポーツを通して、運動の重要性を伝え、学生たちの『運動の習慣化』を計る。							
授業の一般目標	体を動かす重要性を理解し、運動を習慣づけることができる。							
受講条件	動物看護科に在籍している。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	適宜テキストを配布							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点								
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点								
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	息が弾むほどの運動ができる。							
授業計画(全体)								
学内のホールや校外の施設を利用して全身運動を行う								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容				備考	
第1回	ストレッチの重要性 体ほぐし運動		ストレッチが何故必要なのかを理解して運動前には入念なストレッチを行う事ができる。 アイスブレイクの要素を含んだ運動を行う。				3号館8階382教室	
第2回	体力測定②		基礎的な運動能力を測定し、自身の運動能力を把握する。 自身の不足部位を把握し、筋力強化につながる意識付けをする。				3号館8階382教室	
第3回	球技①		球技を通して、日頃することのない運動を行う。				京都テルサ体育館利用	
第4回								
第5回	空手①		護身術を鍛え、体幹を鍛える。				3号館8階382教室	
第6回	球技②		球技を通して、日頃することのない運動を行う。				京都テルサ体育館利用	
第7回								
第8回	ボーリング		ボーリング大会				2020年11月実施予定	
第9回								
第10回	球技③		球技を通して、日頃することのない運動を行う。				京都テルサ体育館利用	
第11回								
第12回	空手②		護身術を鍛え、体幹を鍛える。				3号館8階382教室	
第13回	球技④		球技を通して、日頃することのない運動を行う。				京都テルサ体育館利用	
第14回								
第15回	普通救命講習		急病人の命を守る知識とスキル習得を目的に、心肺蘇生やAEDの使い方、けがの手当など、応急手当を習得する。 緊急時の応急処置として役立てることができます。				3号館8階382教室	
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験			◎	○	◎		60	秀 (S):100点～90点
小テスト							-	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート							-	良 (B):79点～70点
授業態度			○	◎			30	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			○				10	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	動物飼育実習Ⅰ			単位数	1	科目コード	NH2001	
授業形態	講義			対象学生	1年生	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	前期	教員実務経験対象	有	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	適正飼育法及び動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につけ、正常と異常を鑑別しながら、小動物の飼育が行えるようになる。							
授業の一般目標	伴侶動物学Ⅰ学んだ知識を用いて正確性、迅速性を身につけ、飼育を行うことができる。							
受講条件	伴侶動物学Ⅰの単位認定							
事前学習について (テキスト・参考書等)	緑書房出版「動物看護の教科書(新訂版)第4巻」、インターズー出版「動物看護実習テキスト第2版」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	本校飼育動物の適正と言われる飼育について説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	事故なく飼育動物の飼育が行うことができる。							
授業計画(全体)								
小動物の飼育を通して個人のスキルアップから観察力のアップ、そして質の高い飼育が出来るように授業を進める								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容				備 考	
第1回	事前準備 1		飼育を取りかかる前の確認				講義	
第2回	飼育時の留意点 1		飼育時の留意点を確認					
第3回	協働で質の高い飼育を目指す		伴侶動物学で学んだ知識を用いて、正確性、迅速性を身につける					
第4回	動物福祉を意識し質の高い飼育を目指す		伴侶動物学で学んだ知識を用いて、正確性、迅速性を身につける また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける					
第5回	正確性と迅速性を意識し質の高い飼育を目指す 1							
第6回	正確性と迅速性を意識し質の高い飼育を目指す 2							
第7回	チームを意識した高い飼育を目指す 1							
第8回	チームを意識した高い飼育を目指す 2							
第9回	コミュニケーション力を活かし質の高い飼育を目指す 1							
第10回	コミュニケーション力を活かし質の高い飼育を目指す 2							
第11回	情報の共有から質の高い飼育を目指す 1							
第12回	情報の共有から質の高い飼育を目指す 2							
第13回	試験の説明・準備		今まで勉強したことを踏まえ、その動物の飼育についてのポスターを作る				※飼育は当番学生のみで行う。 試験はグループで行うため、グループに分かれ、準備をする。	
第14回	試験準備							
第15回	期末試験(発表)		まとめたポスターを用いて、その動物の飼育についての発表を行う				※飼育は当番学生のみで行う。	
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							－	秀 (S):100点～90点
小テスト							－	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート							－	良 (B):79点～70点
授業態度			○	◎			20	可 (D):69点～60点
発表・作品	○	○	○	○			40	不可(E):59点以下
演習			○	○	○		30	
出席			○				10	
担当教員	北村 昌樹			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/			

科目名	動物飼育実習Ⅱ			単位数	1	科目コード	NH2002	
授業形態	講義			対象学生	2年生	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	前期	教員実務経験対象	有	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	適正飼育法及び動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につけ、正常と異常を鑑別しながら、小動物の飼育が行えるようになる。							
授業の一般目標	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて正確性、迅速性を身につける。							
受講条件	動物飼育実習Ⅰの単位認定							
事前学習について (テキスト・参考書等)	緑書房出版「動物看護の教科書(新訂版)第4巻」、インターズー出版「動物看護実習テキスト第2版」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	エキゾチックアニマルの飼育についての飼い主からの質問に、グループとして適切な解答ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	グループでコミュニケーションをとり、事故なく飼育動物の飼育が行うことができる。							
授業計画(全体)								
小動物の飼育を通して個人のスキルアップから観察力のアップ、そして質の高い飼育が出来るように授業を進める								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容					備考	
第1回	個人のスキルアップから質の高い飼育を目指す	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。 また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける						
第2回								
第3回								
第4回								
第5回	観察力アップから質の高い飼育を目指す							
第6回								
第7回								
第8回								
第9回								
第10回	自己評価から質の高い飼育を目指す							
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回	飼育実技試験	グループで、担当動物の飼育を正しく行う事ができる 飼育動物の生態・習性などについてを口頭で説明する事ができる						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○	○	○		50	秀 (S):100点～90点
小テスト							－	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート	○		○				10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	◎			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							－	不可(E):59点以下
演習			○	○			20	
出席			○				10	
担当教員	北村 昌樹			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/			

科目名	動物飼育実習Ⅱ			単位数	1	科目コード	NH2003	
授業形態	講義			対象学生	2年生	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	後期	教員実務経験対象	有	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	適正飼育法及び動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につけ、正常と異常を鑑別しながら、小動物の飼育が行えるようになる。							
授業の一般目標	動物飼育実習Ⅱでの実践能力に応用力を用いて正確性、迅速性を身につける。							
受講条件	動物飼育実習Ⅱの単位認定							
事前学習について (テキスト・参考書等)	緑書房出版「動物看護の教科書(新訂版)第4巻」、インターズー出版「動物看護実習テキスト第2版」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	エキゾチックアニマルの飼育についての飼い主からの質問に、個人で適切な解答ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	チーム医療を意識し、事故なく飼育動物の飼育が行うことができる。							
授業計画(全体)								
小動物の飼育を通して質の高い飼育を目指し、動物看護師として倫理観を備えた飼育が出来るように授業を進める								
授業計画(授業単位)								
回	主 題			授 業 内 容			備考	
第1回	危機管理を実践に活かし質の高い飼育を目指す			動物飼育実習Ⅱでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。 また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける				
第2回								
第3回								
第4回								
第5回	入院管理を想定し質の高い飼育を目指す							
第6回								
第7回								
第8回								
第9回	動物看護師としての倫理観を備えた質の高い飼育を目指す							
第10回								
第11回								
第12回								
第13回	学年末試験①	2チームに分かれ、前半組が実習試験 後半組は筆記試験を行う			※飼育動物の頭数・ストレスを考え、学年末試験は2回に分けて行う ※学生証が必要			
第14回	学年末試験②	前回のチームで、後半組が実習試験 前半組は筆記試験を行う						
第15回	飼育実習の総括	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○	○	○		50	秀 (S):100点～90点
小テスト							－	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート	○		○				10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	◎			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							－	不可(E):59点以下
演習			○	○			20	
出席			○				10	
担当教員	北村 昌樹			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/			

科目名	動物内科看護学実習Ⅲ			単位数	1	科目コード	NH2004		
授業形態	実習			対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	必修			開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的・目標とする資格・検定等)	犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。								
授業の一般目標	修得した知識の実践力を身に付ける								
受講条件	動物内科看護学実習Ⅱの単位認定								
事前学習について (テキスト・参考書等)	緑書房出版「動物看護の教科書(新訂版) 第5巻」、インターズー出版「動物看護実習テキスト第2版」								
授業の到達目標									
□ 知識・理解の観点	日常的な健康管理や内科診療補助等の各種技法や手順を説明できる。								
□ 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。								
□ 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。								
□ 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。								
□ 技能・表現の観点	日常的な健康管理や内科診療補助等の各種技法を適宜実施できる。								
授業計画(全体)									
動物の基本的な扱い方が出来るように、動物に応じたハンドリングや基本的なグルーミングを行う。									
授業計画(授業単位)									
回	主 題			授 業 内 容			備 考		
第1回	グルーミング実習Ⅱ ①			基本的なグルーミング(爪切り、耳掃除、肛門嚢処置)/ブラッシング					
第2回	グルーミング実習Ⅱ ②			シャンプー実習					
第3回	グルーミング実習Ⅱ ③								
第4回	グルーミング実習Ⅱ ④			基本的なグルーミング(爪切り、耳掃除、肛門嚢処置)/ブラッシング					
第5回	グルーミング実習Ⅱ ⑤			シャンプー実習					
第6回	グルーミング実習Ⅱ ⑥								
第7回	グルーミング実習Ⅱ ⑦			基本的なグルーミング(爪切り、耳掃除、肛門嚢処置)/ブラッシング					
第8回	グルーミング実習Ⅱ ⑧			シャンプー実習					
第9回	グルーミング実習Ⅱ ⑨								
第10回	グルーミング実習Ⅱ ⑩			基本的なグルーミング(爪切り、耳掃除、肛門嚢処置)/ブラッシング					
第11回	グルーミング実習Ⅱ ⑪			シャンプー実習					
第12回	グルーミング実習Ⅱ ⑫								
第13回	グルーミング実習Ⅱ ⑬			基本的なグルーミング(爪切り、耳掃除、肛門嚢処置)(試験)/ブラッシング(試験)					
第14回	グルーミング実習Ⅱ ⑭			シャンプー実習(試験)					
第15回	グルーミング実習Ⅱ ⑮								
成績評価方法									
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。									
		知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験		○	○	○	○	○		50	秀(S):100点～90点
小テスト								-	優(A):89点～80点
宿題授業外レポート		○		○				10	良(B):79点～70点
授業態度				○	◎			10	可(D):69点～60点
発表・作品								-	不可(E):59点以下
演習				○	○			20	
出席				○				10	
担当教員					実務経験紹介				

科目名	統一試験対策Ⅰ			単位数	1	科目コード	NH2005	
授業形態	講義			対象学生	2年生	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	前期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	動物看護師統一認定試験に合格するための勉強ができるようになる。							
授業の一般目標	今まで学んできた内容をもとに、動物看護師統一認定試験の過去問題を解き、本試験に向けて弱点の克服や対策を練る。							
受講条件	2021年度 動物看護師統一認定試験受験学生							
事前学習について (テキスト・参考書等)	適宜資料配布							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	動物看護師統一認定試験の過去問や予想問題の各問題について説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
動物看護師統一認定機構の過去問題から検定合格を目指してアクティブラーニングで授業を進める								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容				備考	
第1回	過去問実施①		2018年度に実施された統一試験(過去問)を解き、自身の弱点分野・わからない部分を分析できる					
第2回	勉強の仕方について 2019年度過去問解説		この授業の進み方を知り、試験勉強を効率よくすることができる 前回の問題の正答率が低い問題を解くことができる					
第3回	2019年度過去問グループワーク①		正答率の低い問題を他者に説明する				4人1組のグループで問題を解説できるよう話し合い、全員の前で発表	
第4回	2019年度過去問グループワーク②		正答率の低い問題を他者に説明する					
第5回	2019年度過去問グループワーク③		正答率の低い問題を他者に説明する					
第6回	2019年度過去問グループワーク④		正答率の低い問題を他者に説明する					
第7回	2019年度過去問グループワーク⑤		正答率の低い問題を他者に説明する					
第8回	過去問実施②		2019年度に実施された統一試験(過去問)を解き、自身の弱点分野・わからない部分を分析できる					
第9回	2020年度過去問グループワーク①		正答率の低い問題を他者に説明する				4人1組のグループで問題を解説できるよう話し合い、全員の前で発表	
第10回	2020年度過去問グループワーク②		正答率の低い問題を他者に説明する					
第11回	2020年度過去問グループワーク③		正答率の低い問題を他者に説明する					
第12回	2020年度過去問グループワーク④		正答率の低い問題を他者に説明する					
第13回	2020年度過去問グループワーク⑤		正答率の低い問題を他者に説明する					
第14回	授業振り返り／単位認定試験		授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける				※学生証が必要	
第15回	テスト返し／解説		前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点～90点
小テスト	○	○	◎				20	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎	○				10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	◎			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			○				10	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	統一試験対策Ⅱ			単位数	1	科目コード	NH2006	
授業形態	講義			対象学生	2年生	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	後期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)		動物看護師統一認定試験に合格するための勉強ができるようになる。						
授業の一般目標		今まで学んできた内容をもとに、動物看護師統一認定試験の過去問題を解き、本試験に向けて弱点の克服や対策を練る。						
受講条件		統一試験対策Ⅰの単位認定						
事前学習について (テキスト・参考書等)		適宜資料配布 テキスト:2021年度資格試験対策問題集						
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点		動物看護師統一認定試験の過去問や予想問題の各問題について説明できる。						
□ 思考・判断の観点		臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。						
□ 関心・意欲の観点		自ら疑問点を見出し、追究することができる。						
□ 態度の観点		積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。						
□ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
動物看護師統一認定機構の過去問題から検定合格を目指してアクティブラーニングで授業を進める								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容				備 考	
第1回	過去問実施④		2017年度に実施された統一試験(過去問)を解き、自身の弱点分野・わからない部分を分析できる					
第2回	2018年度過去問ペアワーク①		2人1組のペアを作り、実施した過去問をグループで話し合い、各問題を人に解説できる					
第3回	2018年度過去問ペアワーク②		2人1組のペアを作り、実施した過去問をグループで話し合い、各問題を人に解説できる					
第4回	2018年度過去問ペアワーク③		2人1組のペアを作り、実施した過去問をグループで話し合い、各問題を人に解説できる					
第5回	2018年度過去問ペアワーク④ (解説発表)		人前で各問題の解説ができる					
第6回	過去問実施⑤		2016年度に実施された統一試験(過去問)を解き、自身の弱点分野・わからない部分を分析できる					
第7回	2017年度過去問ペアワーク①		2人1組のペアを作り、実施した過去問をグループで話し合い、各問題を人に解説できる					
第8回	2017年度過去問ペアワーク②		2人1組のペアを作り、実施した過去問をグループで話し合い、各問題を人に解説できる					
第9回	2017年度過去問ペアワーク③		2人1組のペアを作り、実施した過去問をグループで話し合い、各問題を人に解説できる					
第10回	2017年度過去問ペアワーク④ (解説発表)		人前で各問題の解説ができる					
第11回	過去問実施⑥		2人1組のペアを作り、実施した過去問をグループで話し合い、各問題を人に解説できる					
第12回	2021年度予想問題ペアワーク①		2人1組のペアを作り、実施した過去問をグループで話し合い、各問題を人に解説できる					
第13回	2021年度予想問題ペアワーク②		2人1組のペアを作り、実施した過去問をグループで話し合い、各問題を人に解説できる					
第14回	2021年度予想問題度過去問ペアワーク③ (解説発表)		人前で各問題の解説ができる					
第15回	単位認定試験		授業内にて単位認定試験を受ける				※学生証が必要	
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点～90点
小テスト	○	○	◎				20	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎	○				10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	◎			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			○				10	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	アニマルヘルパー			単位数	1	科目コード	NI2001	
授業形態	講義/実習			対象学生	1年生	開設期	半期	
区分	選択			開設時期	前期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	独立開業を目指す場合やトリマー、、ドッグトレーナー、ペットショップ、ペットホテル等どの職業に就いても必要となる訪問サービスを学び身につける。							
授業の一般目標	アニマルヘルパーが行うペット訪問サポートについて実践的に身につける。							
受講条件	動物看護科に在籍している。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	適宜テキストを配布							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	生涯学習とは何かについて説明できる。2. 教育の各領域の概要と課題を説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	日常生活の中で教育問題について主体的に考えることができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
犬・猫の行動特性を理解しヘルパー業務を身に付ける。また要介護が必要な動物のケアも学ぶ								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容				備 考	
第1回	導入・インフォメーション		講座の目標、講座終了までの流れ、配布資料の確認					
第2回	犬の行動 ①		犬の発達過程、犬種特性、ボディランゲージ					
第3回	猫の行動 ①		猫の発達過程、ボディランゲージ、排泄や爪とぎなど猫特有の行動					
第4回	ヘルパー業務 (犬 ①)		犬のお世話をする際の注意事項や散歩や食事など依頼される可能性が高い内容について、手順や注意事項					
第5回	ヘルパー業務 (犬 ②)							
第6回	ヘルパー業務 (猫 ①)		猫のお世話をする際の注意事項やトイレ掃除や遊びなど依頼される可能性が高い内容について、手順や注意事項					
第7回	ヘルパー業務 (猫 ②)							
第8回	エキゾチックアニマル		一般的な小動物の具体的なお世話や注意事項					
第9回	要介護動物のケア ①		食事介護や排泄介護、運動介護など、特別に看護ケが必要な動物の対応					
第10回	要介護動物のケア ②							
第11回	訪問時の心肺蘇生術		訪問サービス時の心肺蘇生法のタイミングや具体的な方法					
第12回	修了試験		確認テスト					
成績評価方法								
単位認定 修了試験で総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点～90点
小テスト							-	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート							-	良 (B):79点～70点
授業態度			○	◎			25	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			○				25	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	ビジネス文章力Ⅱ			単位数	1	科目コード	NI2002	
授業形態	講義			対象学生	2年生	開設期	半期	
区分	選択			開設時期	後期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	硬筆検定3級取得を目指した授業。文字を書くという私たちの日常生活での最も基本的な教養を身につける。							
授業の一般目標	文字を書くにあたって心を整える。文字を書いて相手に伝えることはコミュニケーションの1つであることを知る。書写の基礎基本を自分のものとして定着する。							
受講条件	ビジネス文章力Ⅰの単位認定							
事前学習について (テキスト・参考書等)	硬筆書写技能検定3級合格のポイント							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	楷書、行書、草書それぞれの違いを知る。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場や日常生活における各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
硬筆書写技能検定3級取得のために必要な学びを行う								
授業計画(授業単位)								
回	主 題			授 業 内 容			備考	
第1回	オリエンテーション			美しい文字を書く基本。用具テキスト、ドリルなど3級の概要説明				
第2回	硬筆ドリル・理論			文字・漢字の基本的な決まり				
第3回	硬筆ドリル・理論			文字のハネ、はらい、角度を学ぶ				
第4回	硬筆ドリル・理論			漢字の基本文字を練習				
第5回	硬筆ドリル・理論			漢字の基本文字を練習				
第6回	硬筆ドリル・理論			漢字の基本文字を練習				
第7回	硬筆ドリル・理論			漢字の基本文字を練習				
第8回	硬筆ドリル・理論			漢字の基本文字を練習				
第9回	硬筆ドリル・理論			漢字の基本文字を練習				
第10回	硬筆ドリル・理論			漢字の基本文字を練習				
第11回	硬筆ドリル・理論			漢字の基本文字を練習				
第12回	硬筆ドリル・理論			漢字の基本文字を練習				
第13回	硬筆ドリル・理論			漢字の基本文字を練習				
第14回	硬筆2級受験模擬			硬筆検定 3 級試験を想定した模擬試験				
第15回	硬筆2級受験模擬			硬筆検定 3 級試験を想定した模擬試験				
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○	○	○		50	秀 (S):100点～90点
小テスト							-	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート	○		○				10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	◎			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習			○	○			20	
出席			○				10	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	日本文化		単位数	1	科目コード	NI2003		
授業形態	講義/実習		対象学生	1年生	開設期	通期		
区分	選択		開設時期	前期/後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	季節の花を生け、生きてる花の表情を捉え、花の命の奥深さを学ぶ。伝統芸術に触れ感性を磨き、自己を知る。 いけ花の実践、芸術表現、花の色彩、伝統行事、京の祭の花							
授業の一般目標	実際に花に触れ、草花の命を見つめ、表現する能力を養う。京の祭や伝統行事に触れ、日本文化や伝統芸術の根底にある豊かな感性、その心を知る。個人の表現を通して自己を知り、グループでの表現を通してチームワークを知る。							
受講条件	動物看護科に在籍している。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	適宜テキストを配布							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	花の命を通じて、動物の命に寄り添うことの重みを感じ、動物看護師として生きていこうとする自分自身の心を見つめなおすことができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	日常生活の中で教育問題について主体的に考えることができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
華道や茶道を体験を通して伝統芸術に触れ感性を磨くことが出来るように進める								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容				備考	
第1回	いけ花の誕生		花と人との関係を古代より現代までを知る					
第2回	いけ花の表現Ⅰ		花をながめ活かすことを知り、花を活ける					
第3回	いけ花の表現Ⅱ		花と花の調和を考え、花を活ける					
第4回	いけ花の表現Ⅲ		広い空間に、花を生け飾り置くことを実践する					
第5回	いけ花の表現Ⅳ		花の型を知り、飾る場所に応じた花を活ける					
第6回	京の祭と花(校外学習)		京都の祭である祇園祭に触れ、花との関わりについて知る					
第7回	いけ花の芸術性の表現		公の空間で展示する機会を設け、制作する					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○	○	○		50	秀 (S):100点～90点
小テスト							-	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート	○		○				10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	◎			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習			○	○			20	
出席			○				10	
担当教員				実務経験紹介				

2021 動物看護科 シラバス

発 行 YIC京都ペット総合専門学校

発行日 2021 年 4 月 1 日

編 集 学校法人京都中央学院

〒600-8236 京都市下京区油小路通塩小路下る西油小路町 27 番地

TEL 075-371-4044 FAX 075-343-3821

本便覧の複写および無断転載を禁ずる。